山梨県韮崎市

立石遺跡

県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1994

韮崎市教育委員会

峡北土地改良事務所

山梨県韮崎市

立石遺跡

県営圃場整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

1994

韮崎市教育委員会

峡北土地改良事務所

序　文

韮崎市では、近年県営圃場整備事業等の大規模開発にともない、数多くの遺跡が発掘調査され貴重な文化財が発見されています。この度発刊された本報告書は、そのような貴重な発見が相次ぐ大規模開発の一端として平成５年度県営圃場整備事業に伴い発掘調査された立石遺跡の報告であります。

立石遺跡からは弥生時代・古墳時代・平安時代の遺物や遺構が発見されました。遺跡から出土した遺物は当時の生活用品である土器・陶器が主体となっており、貴重な資料を得ることができました。これらの資料は文化遺産として、永く後世に伝えて行かなければならないものです。報告書はそれらの文化財を記録にとどめたものであり、本書が我々の先人の生活と歴史をときあかすための手助けになればと願っております。

末筆ですが、遺跡の発掘調査並びに報告書作成に伴い、多大なる御理解と御協力を賜った関係諸機関及び関係者の皆様方に深く感謝を申し上げます。

平成６年３月31日

韮崎市教育委員会

教育長　秋山利良

例　　言

1　本書は、県営圃場整備事業に伴う立石遺跡の発掘調査報告書である。

2　発掘調査は、峡北土地改良事務所負担金、文化庁・山梨県の補助金を受け、韮崎市教育委員会が実施した。

3　本報告書の作成並びに整理作業は、韮崎市教育委員会社会教育課が行った。

4　凡　例

①遺構の番号は発掘調査現場において付けたものである。②縮尺は各挿図ごとに示した。挿図中のドットは焼土をあらわす。③遺構断面図の水糸標高（m）は数字で示した。④挿図断面図の（　）は石をあらわす。⑤歴史時代土器断面、白ぬきは土師器、黒は須恵器、網点は陶器をあらわす。⑥写真図版中遺物に付けられた番号は、実測図の番号と対応する。

5　発掘調査及び報告書作成に当たり、多くの方々から御指導・御協力をいただいた。一々御芳名を上げることは割愛させていただくが、厚く御礼を申し上げる次第である。

6　発掘調査、整理によって出土並びに作成された遺物及び資料は、韮崎市教育委員会において保管している。

調 査 組 織

1　調査主体　韮崎市教育委員会

2　調査担当　山下孝司（韮崎市教育委員会社会教育課）

3　調査参加者

岡本嘉一・小沢高恵・小沢治代・小田切絹江・小田切昭子・小沢久江・小沢栄子・志村冴子・小沢千代子・小沢三千子・岡本保枝・五味ゆき子・深沢真知子・石原ひろみ・小野初美・有賀京子・三井福江・清水由美子・青山みち枝

4　事務局　韮崎市教育委員会社会教育課

教育長　秋山利良、課長　副田国夫、課長補佐　長野栄太

係長　中嶋尚夫、野口文香、梅川昭代

目　　次

序　　文
例　　言
目　　次
挿　図　目　次
写真図版目次

Ⅰ　調査に至る経緯と概要 …… 1

Ⅱ　遺跡の立地と環境 …… 1

1　遺跡の立地

2　周辺の遺跡

Ⅲ　遺跡の地相概観 …… 2

Ⅳ　調査の方法 …… 2

Ⅴ　遺　　構 …… 6

Ⅵ　遺　　物 …… 18

Ⅶ　ま　と　め …… 32

おわりに

写真図版

挿　図　目　次

第１図　立石遺跡①と周辺の遺跡 …… 3
第２図　立石遺跡位置図 …… 4
第３図　立石遺跡全体図 …… 5
第４図　１号住居址平・断面図 …… 6
第５図　２号住居址平・断面図 …… 7
第６図　３号住居址平・断面図 …… 8
第７図　４号住居址平・断面図 …… 9
第８図　５号住居址平・断面図 …… 10
第９図　６号住居址平・断面図 …… 11
第10図　７号住居址遺物出土状態 …… 12
第11図　７号住居址平・断面図 …… 13
第12図　１号土坑、１号・２号・３号・４号円形土坑平・断面図 …… 14
第13図　１号掘立柱建物址平・断面図 …… 15
第14図　１号溝平・断面図 …… 16.17
第15図　１号住居址出土遺物 …… 24
第16図　２号住居址出土遺物 …… 24
第17図　２号住居址出土遺物 …… 25
第18図　３号住居址出土遺物 …… 25
第19図　４号住居址出土遺物 …… 25
第20図　５号住居址出土遺物 …… 26
第21図　６号住居址出土遺物 …… 27
第22図　７号住居址出土遺物 …… 28
第23図　７号住居址出土遺物 …… 29
第24図　７号住居址出土遺物 …… 30
第25図　１号掘立柱建物址出土遺物 …… 30
第26図　１号掘立柱建物址出土遺物 …… 31
第27図　１号溝出土遺物 …… 31
第28図　遺構外出土遺物 …… 31

写 真 図 版 目 次

図版１　立岩，１号住居址，２号住居址

図版２　作業風景，３号住居址，３号住居址カマド

図版３　４号住居址，測量風景，発掘風景

図版４　５号住居址遺物出土状態，５号住居址，５号住居址カマド

図版５　６号住居址遺物出土状態

図版６　６号住居址，７号住居址遺物出土状態

図版７　７号住居址，発掘風景，１号土坑

図版８　１号・２号・３号・４号円形土坑，発掘風景，１号掘立柱建物址，１号溝

図版９　遺跡近景，整理作業，実測作業，１号住居址出土遺物，２号住居址出土遺物

図版10　３号住居址出土遺物，４号住居址出土遺物，５号住居址出土遺物，６号住居址出土遺物

図版11　７号住居址出土遺物，１号掘立柱建物址出土遺物，１号溝出土遺物，遺構外出土遺物

Ⅰ　調査に至る経緯と概要

平成５年度県営圃場整備事業実施に伴い、本市教育委員会では韮崎市圃場整備室から依頼を受け、事業予定地区を平成４年度に踏査及び試掘を行い、遺跡の存在を確認した。その結果をもとに、峡北土地改良事務所・山梨県教育庁文化課・市教育委員会で協議を行い、立石遺跡について、圃場整備事業に先立って面積約2300㎡を対象として発掘調査を行い、記録に留め永く後世に伝えることとした。

発掘調査は、平成５年８月末より開始し約２カ月間おこなった。引き続き、遺物等の整理作業を行い、報告書作成までの作業が完了したのは、平成６年３月であった。

Ⅱ　遺跡の立地と環境

1　遺跡の立地

立石遺跡は、山梨県韮崎市中田町中条字立岩地内に所在した。

韮崎市は、山梨県の北西部に位置し、甲府盆地の北西端を占めている。市内を貫流する釜無川・塩川により、地形的にほぼ山地・台地・平地の三地域に分けられる。塩川右岸の氾濫原は、塩川の侵食によって造られた茅ガ岳山麓の断崖と、七里岩台地東側の片山とに挟まれた低地性の平地となっている。この平地は通称藤井平と呼ばれ、地内を貫流する黒沢川・藤井堰により水利がよく、肥沃で豊かな水田地帯が広がっている。また、『甲斐国志』には「穴山ヨリ南小田川、駒井、坂井、中條、下條、韮崎等ノ数村ヲ里人藤井ノ庄五千石ト云」と記載があり、古くから穀倉地帯であったことが窺える。当該地帯は一見平坦地の様相を呈してはいるが、地形を観察してみると、度重なる氾濫によって自然堤防状の微高地が所々に発達していることがわかる。藤井平は、このような微高上に遺跡が点在しており、立石遺跡は標高約398ｍの水田下に発見された。

2　周辺の遺跡

番号	遺　跡　名	時　代　区　分	備　　考
①	立石遺跡	弥生・古墳・平安	平成５年度　韮崎市教育委員会調査
②	中本田	縄文	昭和61年度　韮崎市教育委員会調査
③	中　　道	縄文・平安	昭和60年度　韮崎市教育委員会調査
④	下木戸	平安	
⑤	中田小学校	縄文・弥生・奈良・平安	昭和59年度　韮崎市教育委員会調査
⑥	金　　山	中世～近世	昭和60年度　韮崎市教育委員会調査

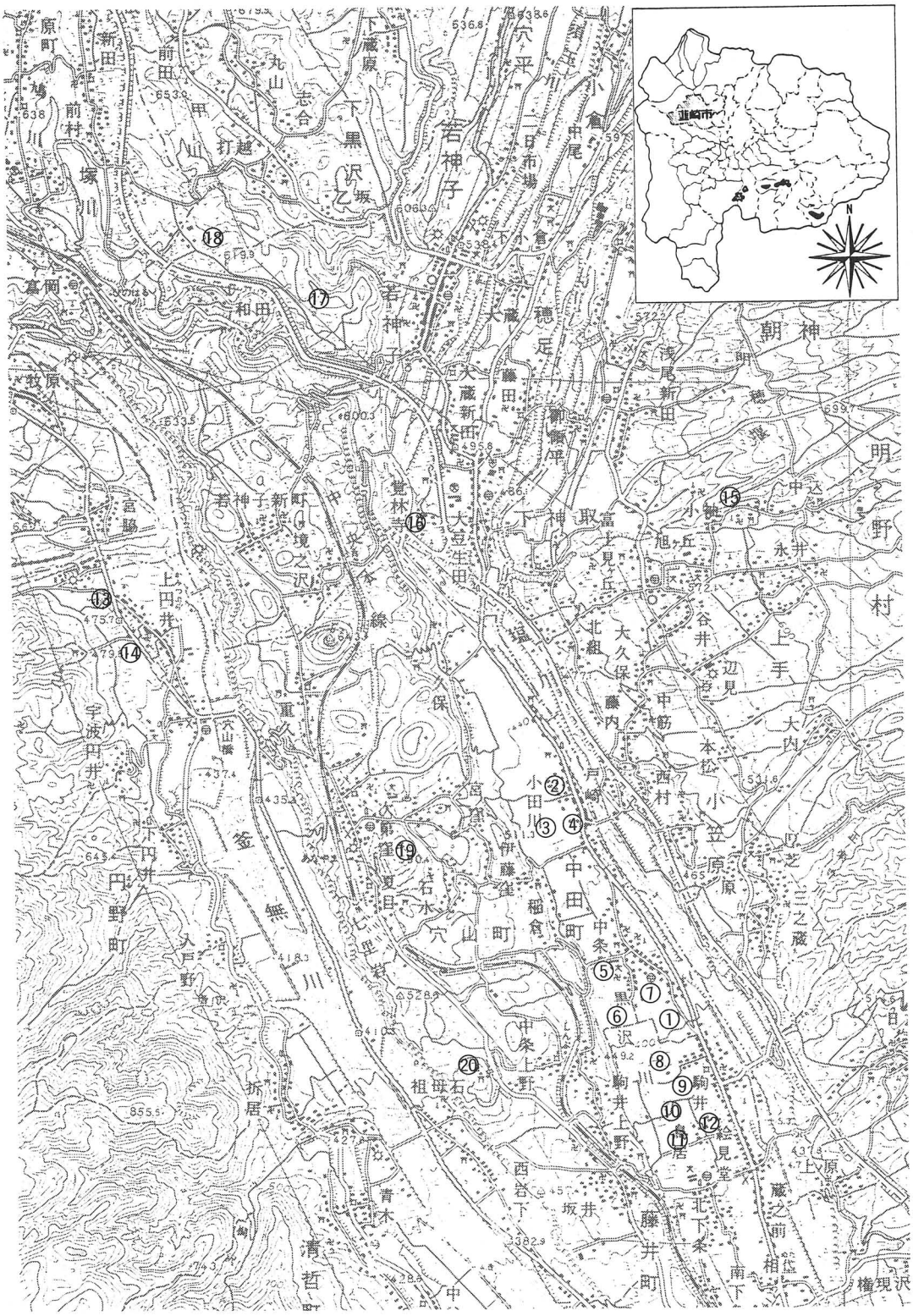
番号	遺　跡　名	時　代　区　分	備　　考
⑦	前　　田	平安	昭和62年度　韮崎市教育委員会調査
⑧	宮ノ前第2	奈良・平安・中世	平成2年度　韮崎市教育委員会調査
⑨	宮　ノ　前	縄文・弥生・奈良・平安	平成元年～平成2年　韮崎市遺跡調査会調査
⑩	北　後　田	縄文・平安	平成元年度　韮崎市教育委員会調査
⑪	後　　田	縄文・弥生・古墳・奈良・平安	昭和63年度　韮崎市教育委員会調査
⑫	堂　の　前	弥生・奈良・平安	昭和61年度　韮崎市教育委員会調査
⑬	北　堂　地	縄文・平安・中世・近世	平成2年度　韮崎市教育委員会調査
⑭	堂　　地	縄文・平安・明治	平成3年度　韮崎市教育委員会調査
⑮	普　門　寺	平安・中世	昭和61年度　明野村教育委員会調査
⑯	大豆生田	縄文・弥生・平安	昭和49年度　山梨県教育委員会調査
⑰	大小久保	平安	昭和57年度　須玉町教育委員会調査
⑱	湯　　沢	平安	昭和58年度　高根町教育委員会調査
⑲	能　見　城	中世城郭	
⑳	新府城跡	中世城郭	国指定史跡

III　遺跡の地相概観

立石遺跡は、藤井町と中田町の間に位置する。周囲は水田が広がり、比較的眺望のよい微高地である。水田床土下には暗褐色系土～黒褐色土層が形成され、それを取り除くと砂礫土となる。遺構は暗褐色土中に掘りこまれていた。

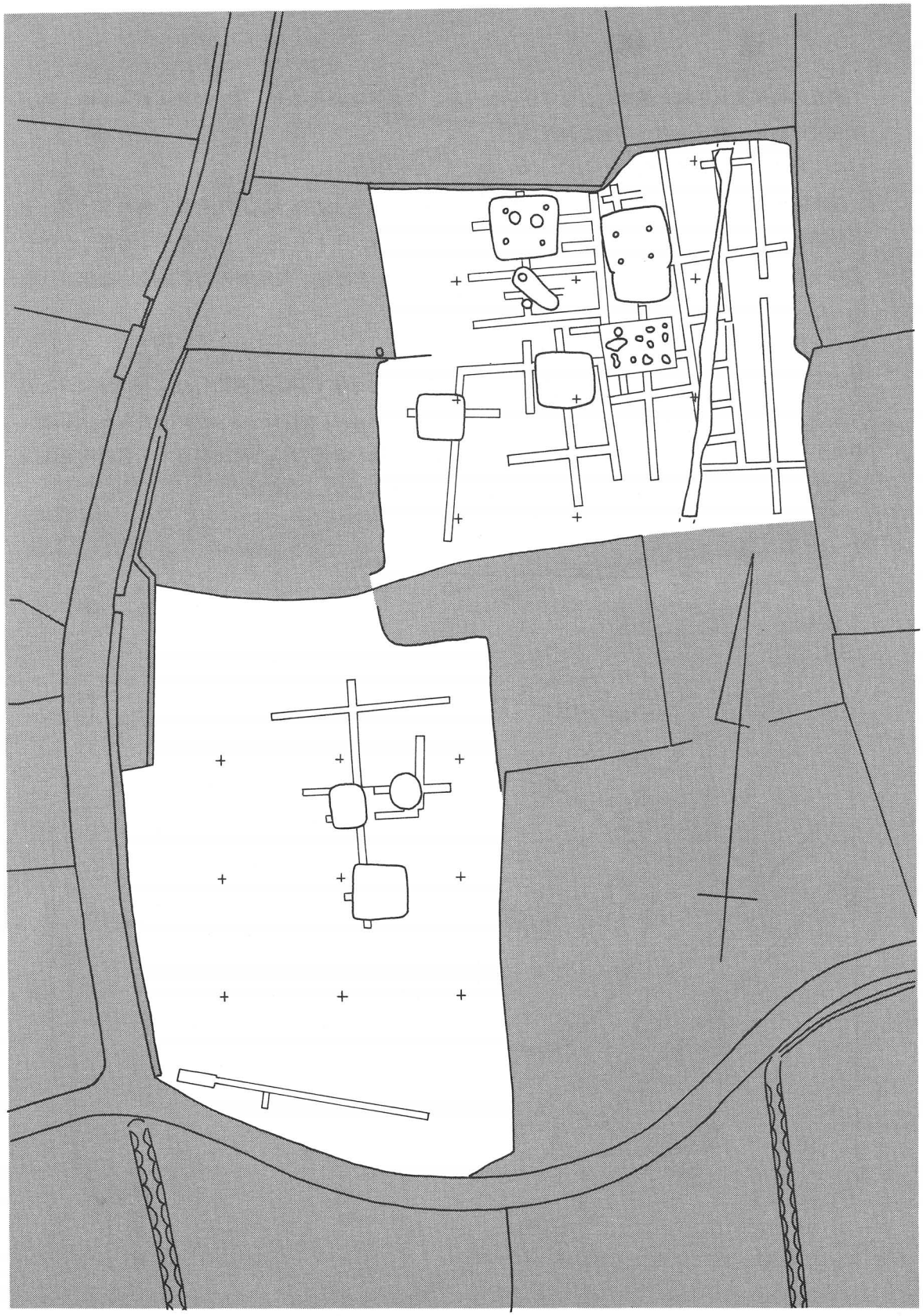
Ⅳ　調査の方法

地形を考慮し任意に10m方眼を設定し調査を行った。耕作土・表土を排除した後、鋤簾等により精査を行い、遺構確認の後、掘り下げを行った。遺物は出るが遺構の確認困難な箇所は任意に試掘用小溝を設定し掘り下げを行い調査を実施した。



第１図　立石遺跡①と周辺の遺跡（１：50000）

第２図　立石遺跡位置図（１：2500）



第３図　立石遺跡全体図（１：500）

Ⅴ 遺　　構

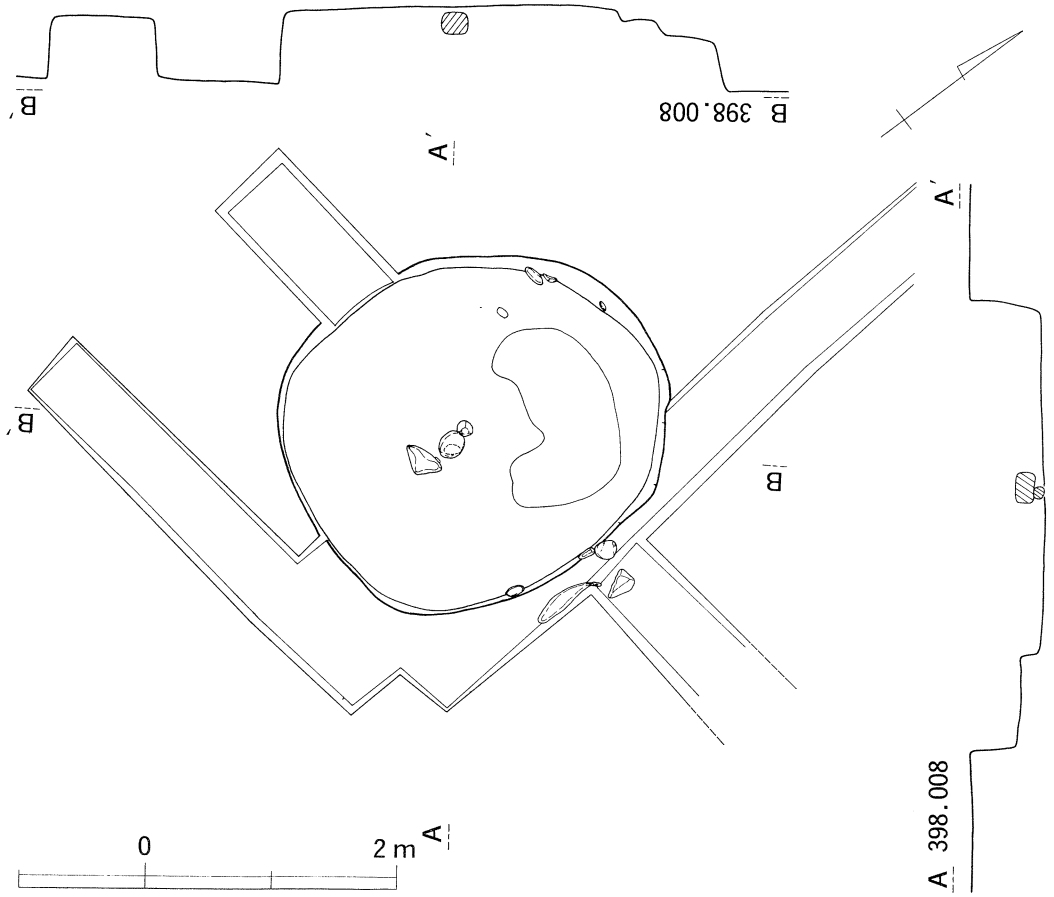
調査の結果発見された遺構は、竪穴住居址７軒、うち古墳時代２軒・平安時代４軒・不明１軒、掘立柱建物址・溝状遺構が発見された。

＜１号住居址＞（第４図）

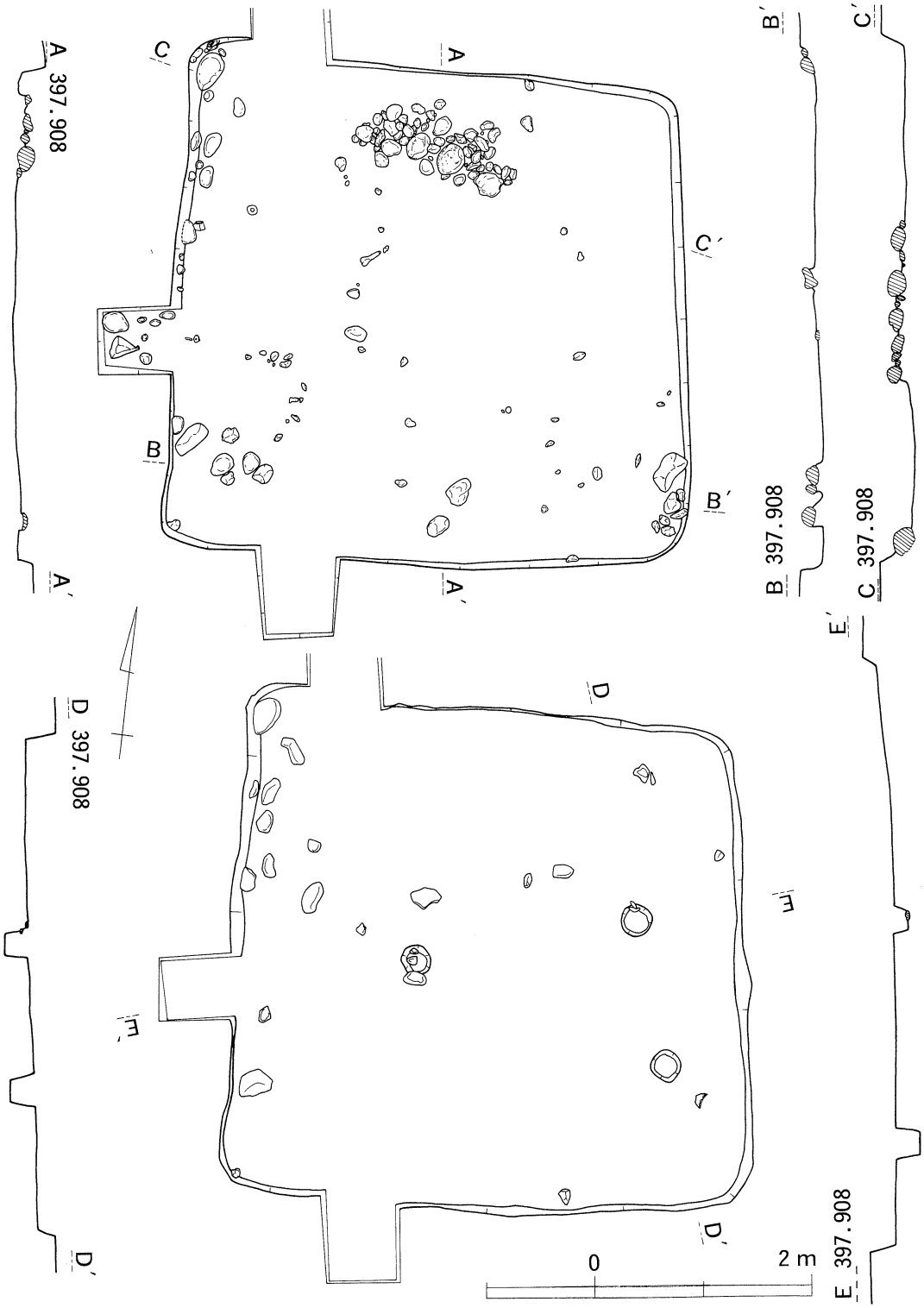
調査区域南半部中央東側に位置する。暗褐色土中に黒褐色土の落ち込みを発見し掘り下げる。平面形態は不整円形を呈する。東西約2.7m、南北約３mの大きさをもつ。壁は僅かに外傾しながら立ち上がり、55cm前後の高さである。底面は中央がややくぼむ。柱穴等の内部施設は確認されなかった。本遺構は住居址としたが、性格不明である。

＜２号住居址＞（第５図）

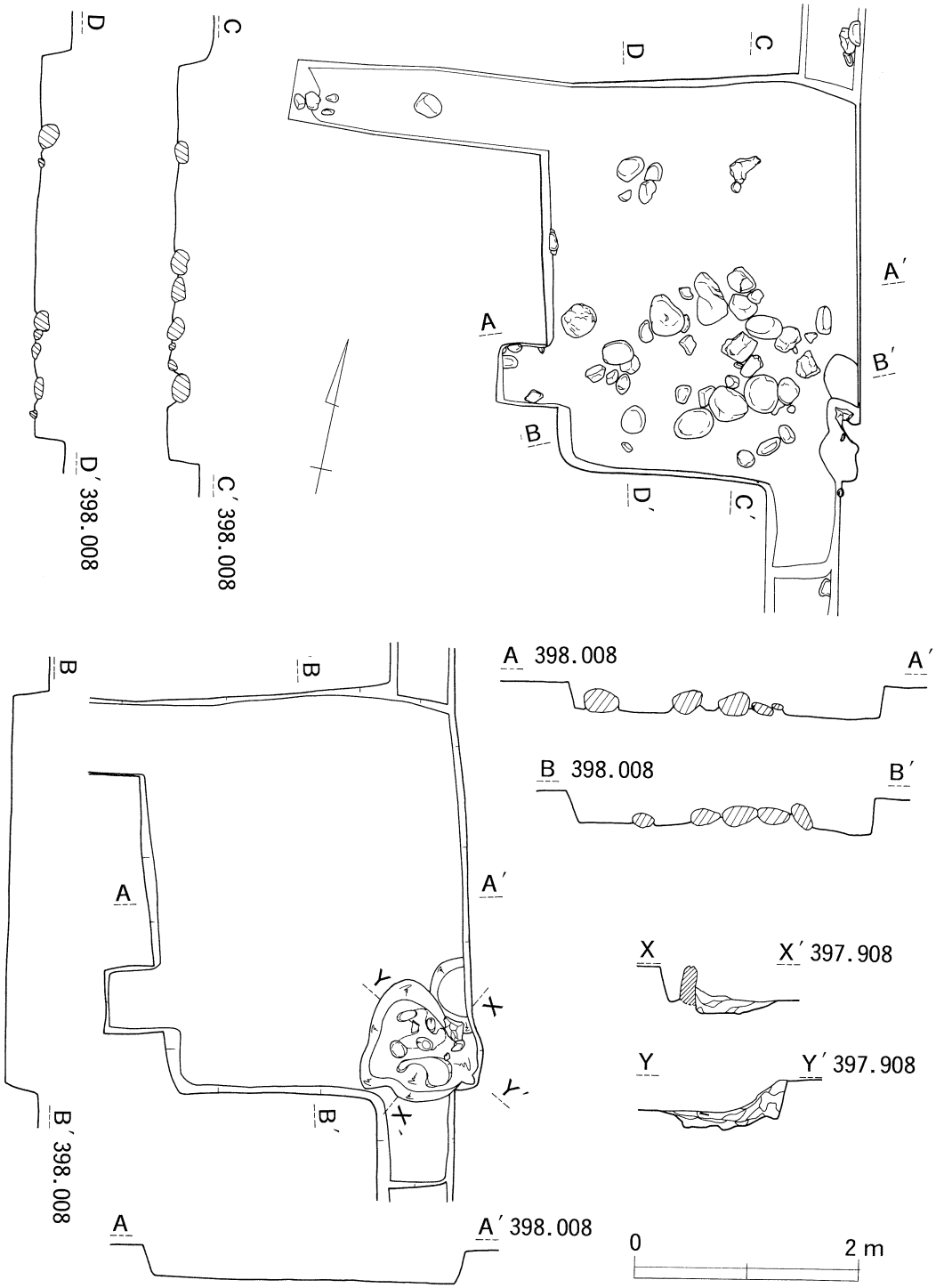
調査区域南半部中央南側に位置する。平面形は隅円方形を呈する。東西約4.8m、南北約4.7mの大きさをもつ。壁は外傾しながら立ち上がり、確認面からの深さは15～30cm前後である。床面は中央がややくぼむ。穴が三つ発見されたが柱穴かどうかはわからない。ほかにカマド等の内部施設は確認されなかった。



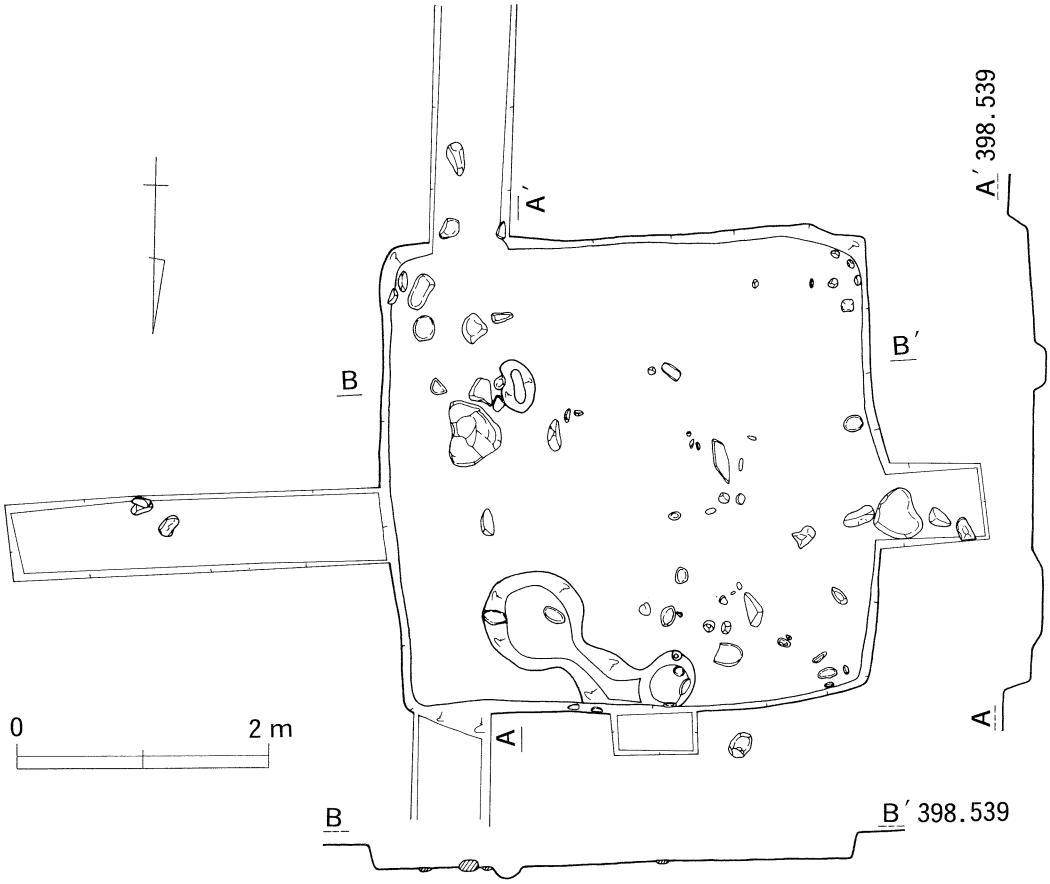
第４図　１号住居址平・断面図（１：60）



第５図　２号住居址平・断面図（１：60）



第６図　３号住居址平・断面図（１：60）



第７図　４号住居址平・断面図（１：60）

＜３号住居址＞（第６図）

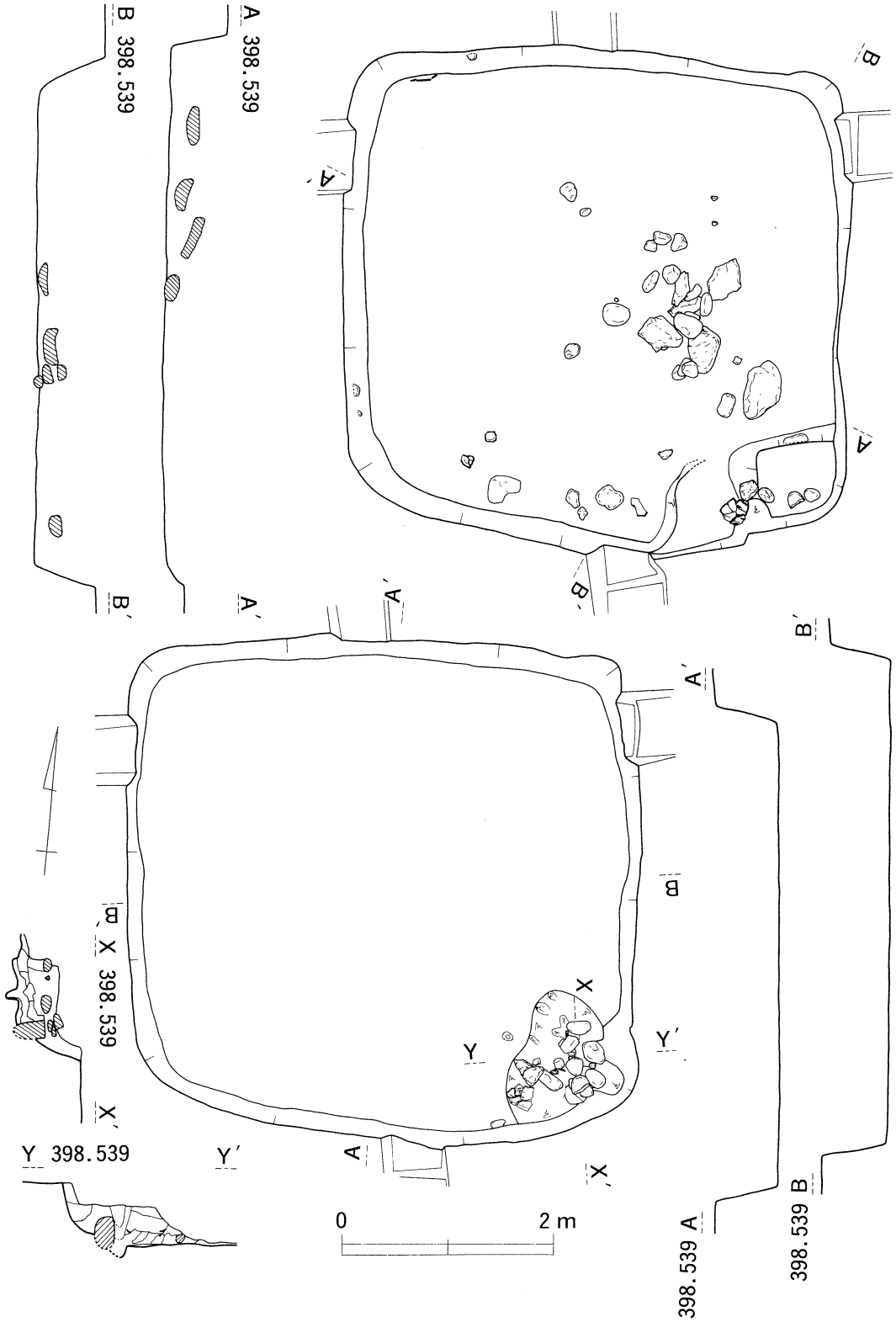
調査区域南半部北側に位置する。平面形は長方形を呈する。東西約2.9m、南北約3.6m程の広さをもつ。壁は外傾しながら立ち上がり、30cm前後の高さである。床面はほぼ平坦。カマドは南東隅につくられる。柱穴・周溝等の内部施設は確認されなかった。

＜４号住居址＞（第７図）

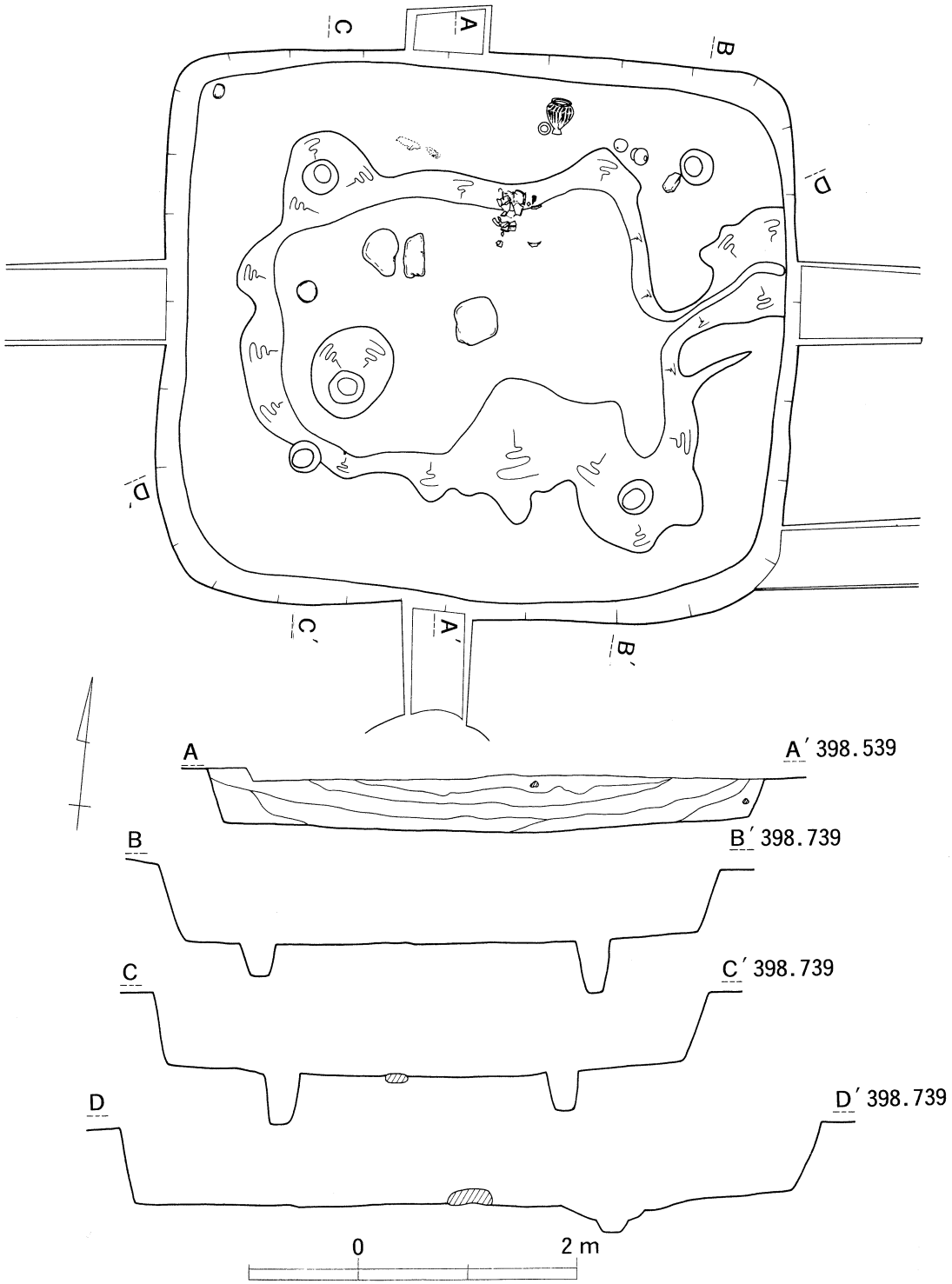
調査区域北半部東側に位置する。暗褐色土の落ち込みを発見し、床面を確認しながら掘り下げた。一辺約3.8mの規模をもち、平面形はほぼ正方形を呈する。壁は外傾し立ち上がり、20cm前後の高さである。床面はほぼ平坦。北側に大きなくぼみが確認されたが、カマドの跡であろうか。柱穴・周溝等の内部施設は確認されなかった。

＜５号住居址＞（第８図）

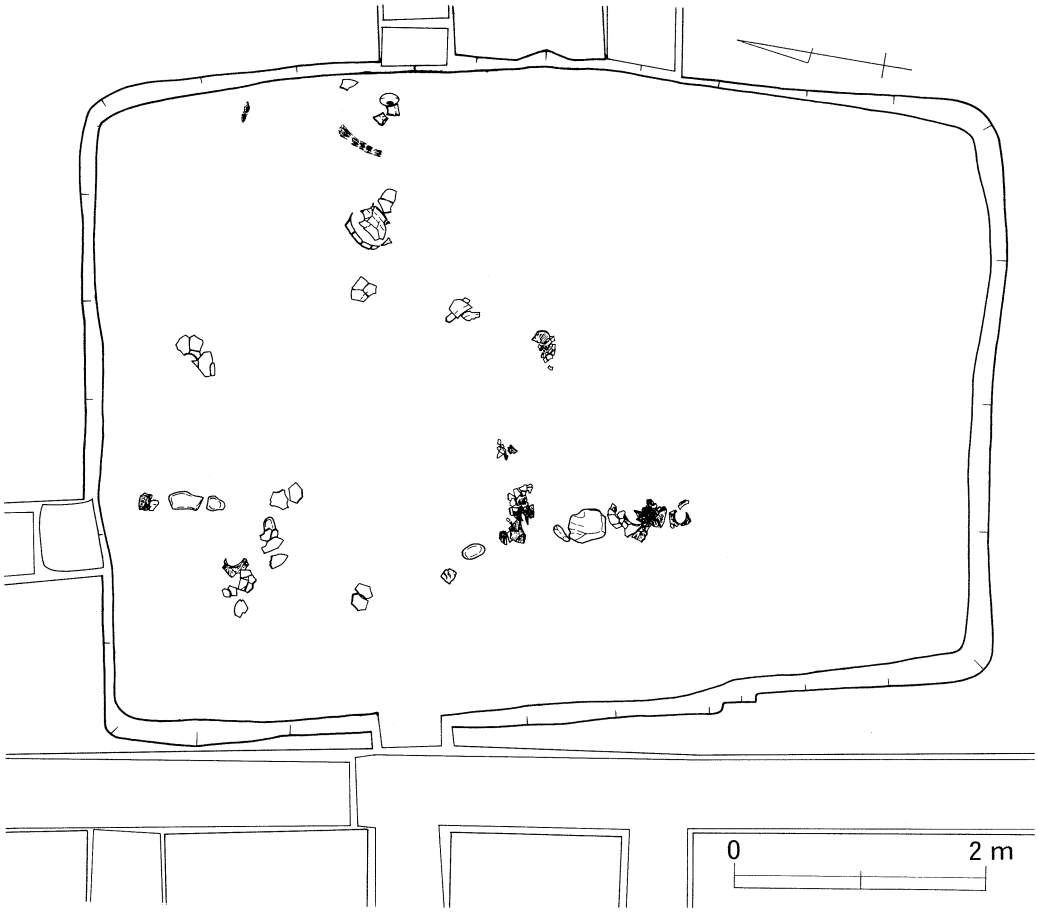
調査区域北半部中央に位置する。東西約4.8m、南北約4.7mの規模をもち、平面形は南東側が膨らむが、ほぼ隅円方形を呈する。壁は外傾しながら立ち上がり、50～60cm前後の高さである。床面は黄褐色土を呈し、ほぼ平坦。南東隅に石を用いてカマドがつくられている。柱穴・周溝等の内部施設は確認されなかった。



第８図　５号住居址平・断面図（１：60）



第９図　６号住居址平・断面図（１：60）



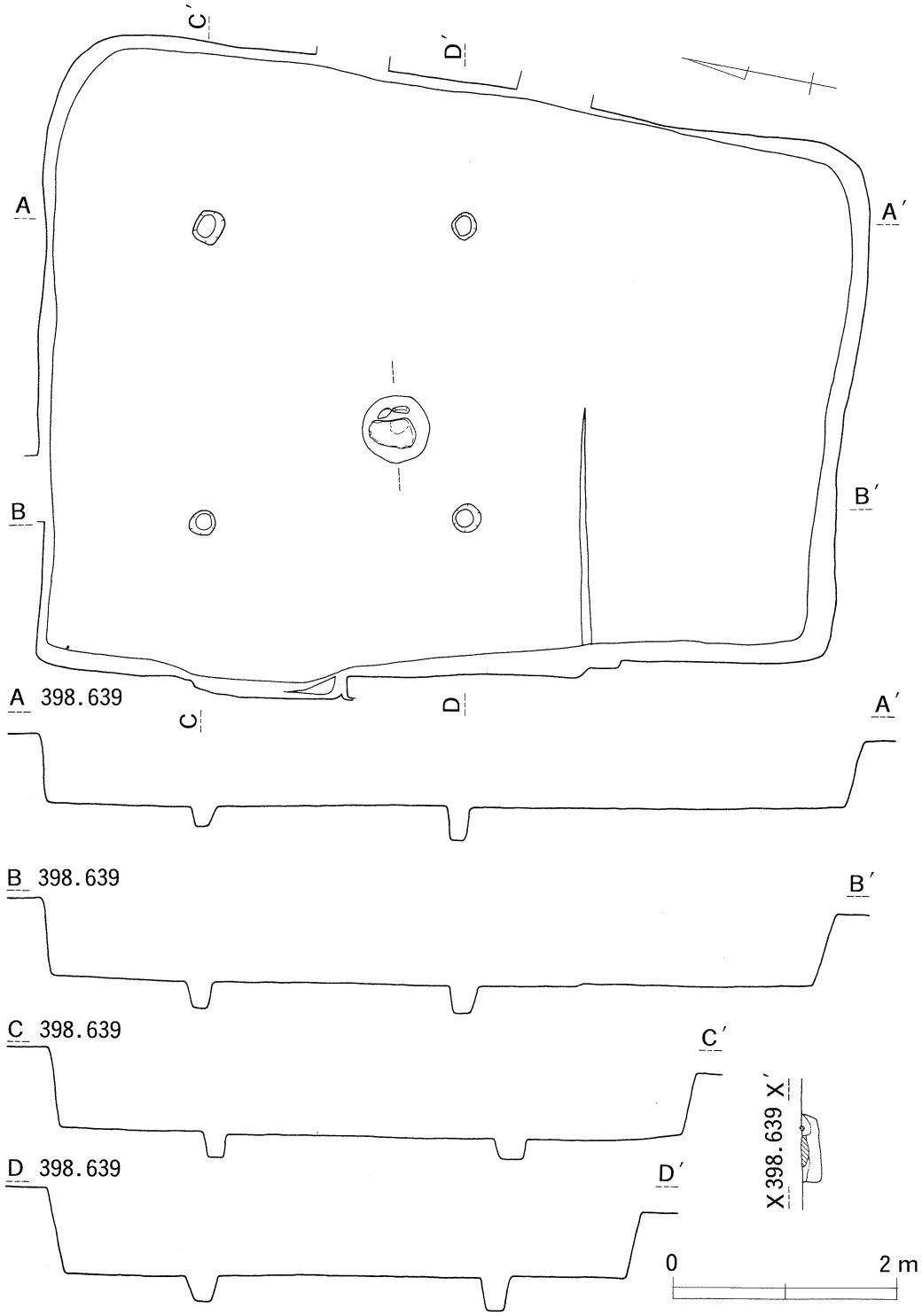
第10図　7号住居址遺物出土状態（1：60）

＜6号住居址＞（第9図）

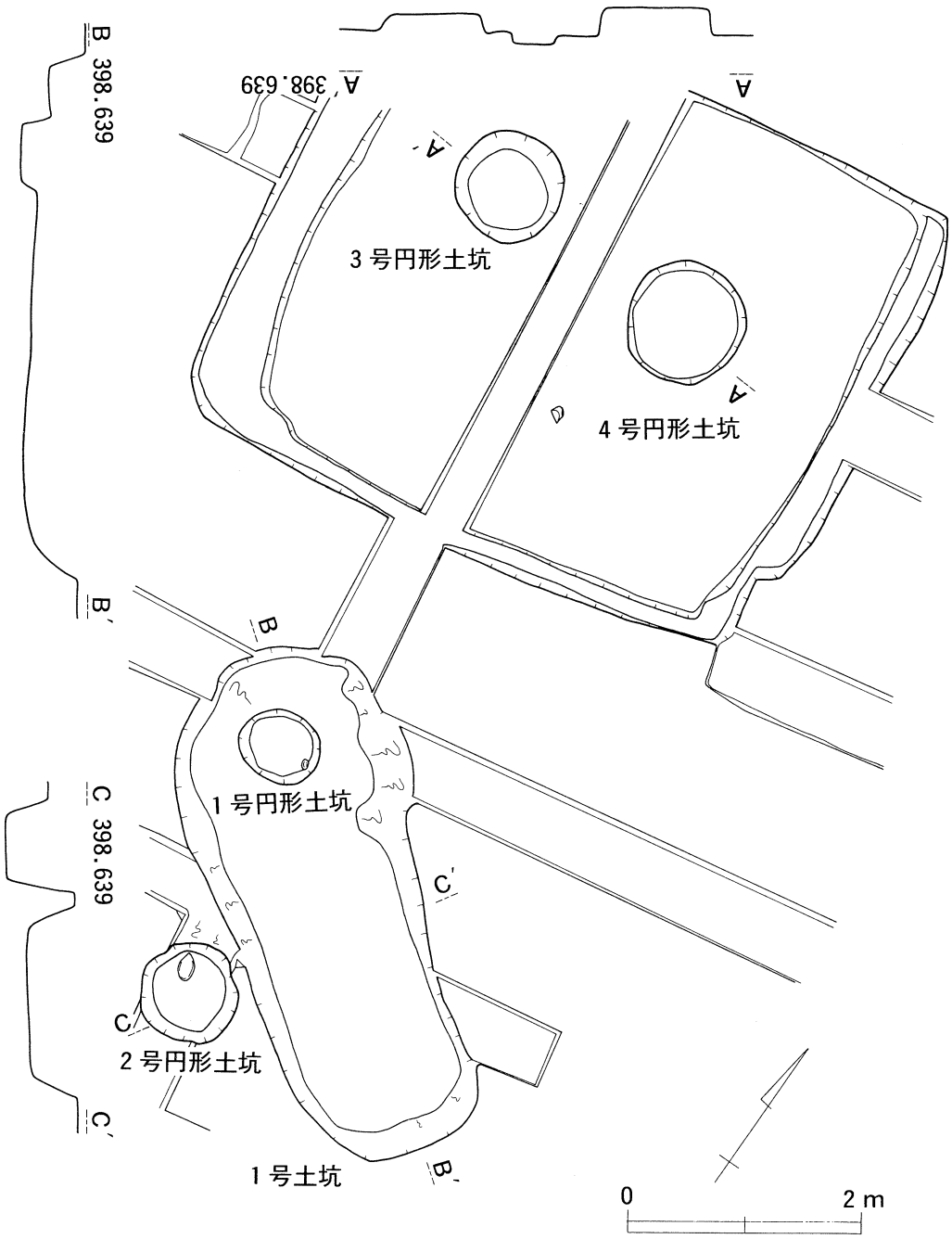
調査区域北半部北辺に位置する。東西約5.8m、南北約5.1mの規模をもち、平面形は隅円長方形を呈する。壁は外傾しながら立ち上がり、70cm前後の深さである。床面は周囲が一段高くなっており、中央部分がくぼむ。柱穴は4本主柱穴で、床面からの深さ30～45cmと不揃いである。床面の段差は柱穴あたりからである。炉は確認されなかったが、くぼんだ床面南西に穴が発見されており、土がやや焼成を受けているようなのでもしかしたら炉跡かもしれない。内部施設ではないが、床面には平石が三個おかれていた。

＜7号住居址＞（第10・11図）

調査区域北半部北東に位置する。暗褐色土の落ち込みを発見し掘り下げるが、埋没土と遺構の掘り込んである土層の区別がやや困難であった。規模は東西約5.2～5.8mで北辺がやや長い、南北方向は5m程である。壁の検出が難しく南側は外側へ2m強程掘りすぎてしまった。平面形は隅円長方形を呈すると思われる。壁は外傾しながら立ち上がり、60～70cm前後の深さである。床面はほぼ平坦。柱穴は4本主柱穴で、床面からの深さ15～30cmと不揃いである。炉は直径60cm程で床面南西に2個の枕石と平石1個を用い構えられている。



第11図　7号住居址平・断面図（1：60）



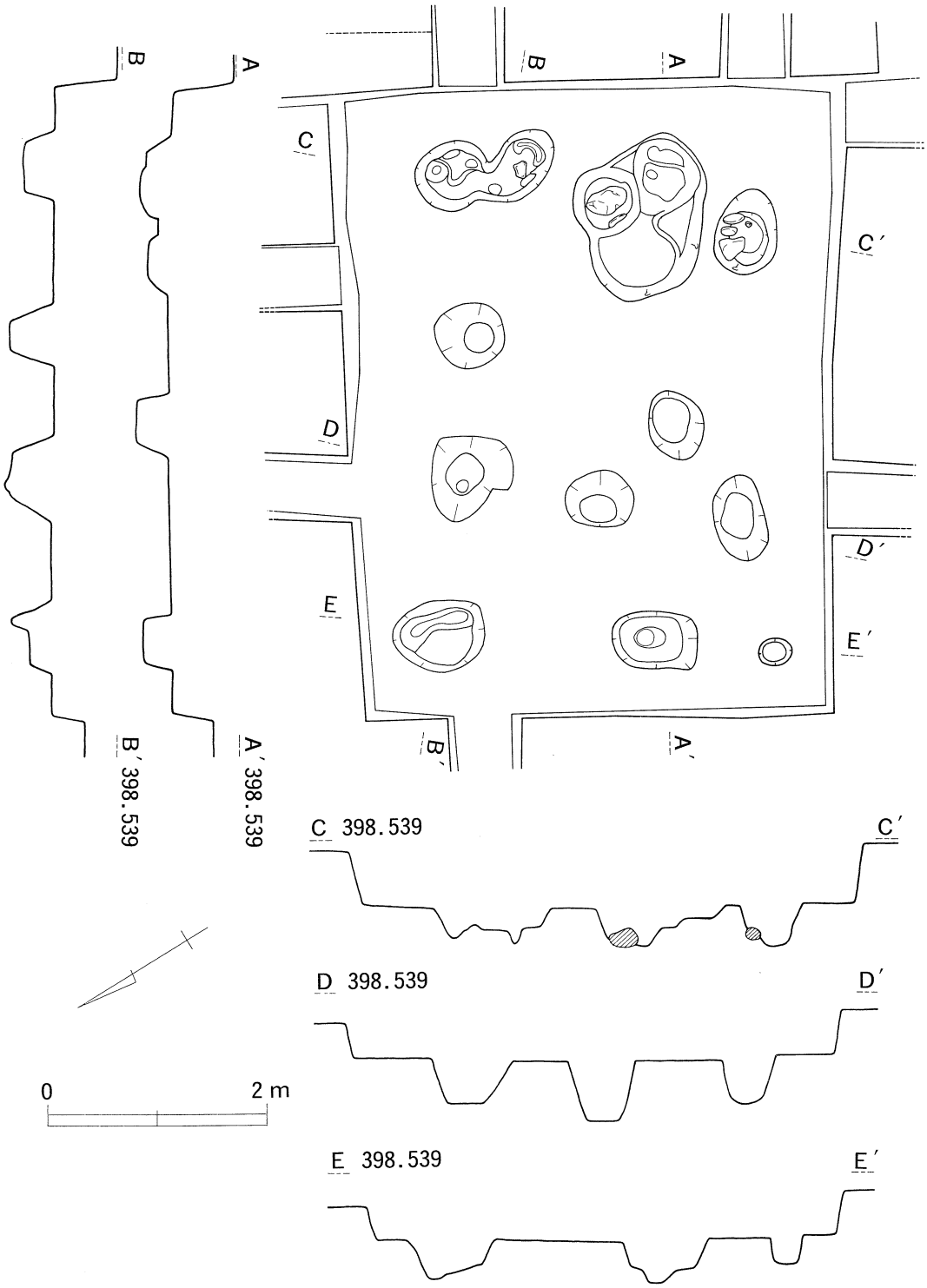
第12図　1号土坑、1号・2号・3号・4号円形土坑平・断面図（1：60）

＜1号土坑＞（第12図）

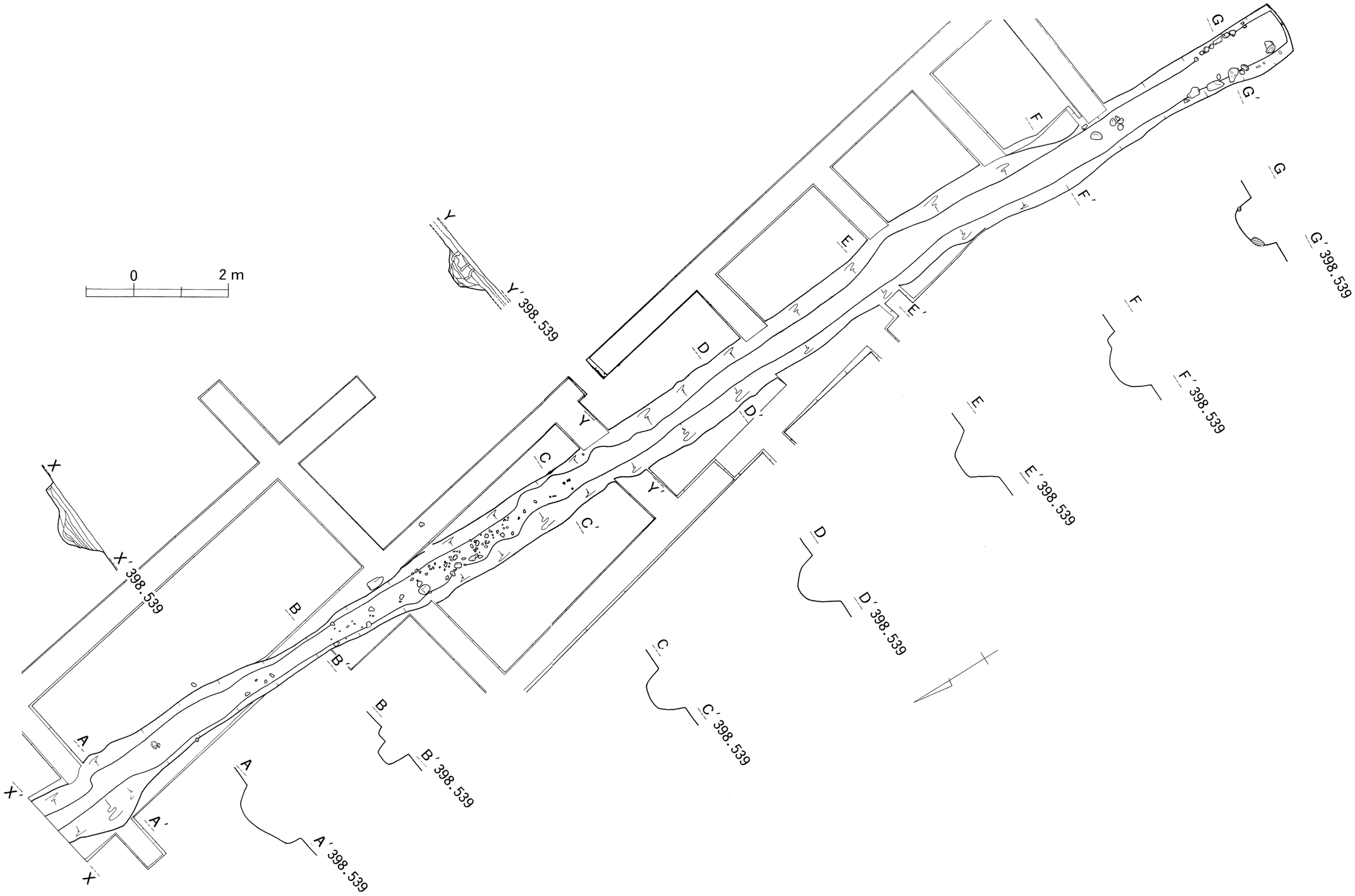
調査区域北半部北側に位置する。規模は長軸約4.5m、短軸1.7m前後で、平面形は長楕円形を呈し、深さは40cmほどである。本遺構の性格等は不明。

＜1号円形土坑＞（第12図）

調査区域北半部北側に位置する。1号土坑内の北西側に発見される。径60cm前後、1号土坑底からの深さは20cm前後。本遺構の性格等は不明。



第13図　１号掘立柱建物址平・断面図（１：60）



第14図　1号溝平・断面図（1：90）

＜２号円形土坑＞（第12図）

調査区域北半部北側に位置する。１号土坑の東側に発見される。径約80cm前後、深さは50cm程である。本遺構の性格等は不明。

＜３号円形土坑＞（第12図）

調査区域北半部北辺に位置する。６号住居址埋没土中に発見される。径約１ｍ、深さは30cm程である。本遺構の性格等は不明。

＜４号円形土坑＞（第12図）

調査区域北半部北辺に位置する。６号住居址埋没土中に発見される。径約１ｍ強、深さは20cm程である。本遺構の性格等は不明。

＜１号掘立柱建物址＞（第13図）

調査区域北半部中央東側に位置する。試掘用小溝の掘り下げにより、小穴が確認されたので、周囲を拡張し掘り下げたところ、外にいくつかの小穴が発見されたので掘立柱建物址とした。長辺４ｍ、短辺３ｍ程の大きさをもつ。平面形は不整の円形で不揃い、確認面からの深さは30～50cm程である。掘立柱建物址と見るにはいまひとつかもしれない。

＜１号溝＞（第14図）

調査区域北半部東側に位置する。ほぼ南北方向に掘られている。北から南へ流れをもつ。

Ⅵ　遺　　物

本遺跡から出土した遺物は、住居址に伴うものが主体で、ほかに掘立柱建物址・溝からも出土している。

＜１号住居址出土遺物＞（第15図）

出土遺物一覧

（単位 cm）

番号	種類	器形	法量 器高・口径・底径	胎土	色調（内面/外面）	整形・特徴・その他
1	土師器	坏	＿＿,＿＿,＿＿	密 細かい赤・白色粒子を含む	明赤褐色	底部に墨書あり 底部破片
2	土師器	甕	＿＿,13.6,＿＿	金雲母と白・黒色粒子を含む	にぶい橙色 橙色	内面－頸部下の指頭痕と横刷毛目が見られる 外面－斜行する縦方向刷毛目 Ｓ字状口縁部を有する台付甕形土器 口縁部破片

＜２号住居址出土遺物＞（第16･17図）

出土遺物一覧

（単位 cm）

番号	種類	器形	法量 器高・口径・底径	胎土	色調（内面/外面）	整形・特徴・その他
1	土師器	皿	＿＿,15.0,＿＿	金雲母を含む	褐色	口縁部撫で 口縁部破片
2	土師器	高台付皿	＿＿,＿＿,7.0	金雲母を含む	にぶい橙色	底部回転糸切り痕 破片

（単位 cm）

番号	種 類	器 形	法 量 器高・口径・底径	胎 土	色調（内面 外面）	整形・特徴・その他
3	土師器	高台付皿	___, ___,6.8	赤色粒子を含む	橙色	底部回転糸切り痕 柱状高台 底部破片
4	土師器	高台付皿	___, ___,8.4	金雲母を含む	にぶい橙色	底部回転糸切り後付高台 破片
5	土師器	高台付皿	5.0,16.0,7.6	金雲母を含む	にぶい橙色	口縁部撫で 1/5残
6	土師質	かわらけ	1.5, 7.7,4.6	金雲母を含む	黒褐色 にぶい褐色	底部回転糸切り痕 口縁部一部欠損
7	土師質	かわらけ	___, ___,5.8	金雲母を含む	明赤褐色 灰褐色	底部回転糸切り痕 破片
8	土師質	かわらけ	2.6, 9.5,5.2	金雲母、細かい黒色粒子を含む	灰褐色 にぶい褐色	底部回転糸切り痕 1/5残
9	土師器	甕	___, ___,6.7	白色、赤色粒子を含む	橙色	底部回転糸切り痕 底部破片
10	石器	砥石				
11	石器	砥石				
12	鉄器					
13	鉄器	紡錘車				
14	鉄器	紡錘車				

＜３号住居址出土遺物＞（第18図）

出土遺物一覧

（単位 cm）

番号	種 類	器 形	法 量 器高・口径・底径	胎 土	色調（内面 外面）	整形・特徴・その他
1	石器	凹石				

＜４号住居址出土遺物＞（第19図）

出土遺物一覧

（単位 cm）

番号	種 類	器 形	法 量 器高・口径・底径	胎 土	色調（内面 外面）	整形・特徴・その他
1	土師質	坏	3.7,10.8, 5.0	細かい砂粒を多く含む	にぶい黄橙色 にぶい黄橙色と一部橙色	底部糸切り痕 雑な整形でゆがみが激しい 1/3欠損
2	土師器	高台付坏	____,14.4,____	赤色粒子 白色粒子を含む	褐灰色 明赤褐色	内面暗文あり 底部回転糸切り後付高台 1/4残
3	土師器	甕	____,____, 8.8	白色粒子を含む	にぶい赤褐色	外面胴下部ヘラ削り 底部木葉痕 底部破片
4	土師質	内耳土器	____,31.0,____	粗 金雲母、砂粒を含む	暗褐色 黒褐色	内外撫で 口縁部破片

＜５号住居址出土遺物＞（第20図）

出土遺物一覧

（単位 cm）

番号	種類	器形	法量 器高・口径・底径	胎土	色調（内面/外面）	整形・特徴・その他
1	土師器	坏	5.4,13.1,6.1	赤・白色粒子を含む	にぶい褐色 にぶい黄褐色	内面－煤付着 底部回転糸切り痕 体部～底部破片
2	土師質	かわらけ	2.6,10.6,4.6	白・赤色粒子、金雲母を含む	橙色	底部回転糸切り後外周ヘラ削り　4/5残
3	土師器	高台付皿	＿,＿,9.0	細かい金雲母、白色粒子を含む	橙色	付高台 底部破片
4	土師器	甕	＿,31.5,＿	やや粗い砂粒を含む	にぶい褐色 にぶい赤褐色	内面－横刷毛目 外面－縦刷毛目 口縁部～胴部破片
5	灰釉陶器	高台付椀	＿,＿,8.0	密 白色粒子を含む	灰白色	底部回転糸切り後付高台 底部破片
6	灰釉陶器	椀	＿,15.0,＿	白色粒子を含む	灰白色	口縁部破片
7	灰釉陶器	椀	7.2,15.7,7.0	密 白色粒子を含む	灰白色	底部付高台 3/5残
8	土師質	鞴の羽口	＿,＿,＿	小石を含む	浅黄橙色 灰褐色	熱を受けた為か脆い 先端部に熔融物付着 先端部破片
9	鉄器	紡錘車				
10	鉄器	?				

＜６号住居址出土遺物＞（第21図）

出土遺物一覧

（単位 cm）

番号	種類	器形	法量 器高・口径・底径	胎土	色調（内面/外面）	整形・特徴・その他
1	土師器	坩形土器	5.6,12.4,＿	白・赤色粒子 金雲母を含む	橙色 （内面に煤付着）	内面－暗文あり 外面－口縁部横撫で、胴～底部へラ磨き 完形
2	土師器	小型壷	19.1,10.5, 4.5	細かい砂粒と金雲母を含む	浅黄色	内面－口縁～頸部横撫で、胴下部に刷毛目がみられる 外面－口縁～頸部横撫で胴上半刷毛目後に撫で、胴下半ヘラ削り　口縁部一部欠損
3	土師器	台付甕	30.3,16.6,10.0	金雲母・砂粒を含む	にぶい褐色 褐色	S字状口縁部横撫で 内面－指頭痕あり 外面－細かい刷毛目（一部剝離） 脚台部へりは内側に折り返っている　完形
4	土師器	台付甕	28.8,16.2, 9.6	細かい砂粒と金雲母を含む	赤褐色 黒褐色一部赤褐色	S字状口縁部横撫で 内面－指頭痕あり 外面－斜め刷毛目 脚台部内側に指頭痕、へりは内側に折り返っている　胴部一部欠損
5	土師器	甕	12.3,10.3, 1.5	赤・白色粒子を含む	橙色 （一部黒変）	内面－口縁部斜め磨き、胴中部は斜め刷毛目、胴下部削り？ 外面－頸部撫で、胴上部斜め磨き、胴中部横磨き、胴下部削り後磨き、底部に単孔があく 胴部・口縁部の一部欠損

＜７号住居址出土遺物＞（第22・23・24図）

出土遺物一覧

（単位 cm）

番号	種 類	器 形	法 量 器高・口径・底径	胎 土	色調（内面/外面）	整形・特徴・その他
1	土師器	壷	＿＿,＿＿, 8.3	雲母、砂粒を含む	にぶい黄橙色 橙 色 （一部黒変）	内面－頸部横撫で、胴上部に輪積痕、指頭痕がみられる 外面－頸部横撫で、胴部磨きの後撫で 口縁部欠損
2	土師器	壷	27.1,14.0, 9.4	赤・白色粒子、砂粒を含む	にぶい褐色 （一部黒変）	内外面－細かい刷毛目 口縁部・底部一部欠損
3	土師器	小型壷	＿＿, 6.0, ＿＿	白色粒子、砂粒を含む	明赤褐色	外面－磨きあり 破片
4	土師器	長頸甕	18.2, 8.4, 4.0	細かい砂粒を含む	橙 色 にぶい褐色	内面－頸部ヘラ撫で 外面－全面磨き （磨滅により不鮮明） ほぼ完形
5	土師器	台付甕	＿＿,＿＿, 9.5	細かい砂粒を含む	にぶい橙色 にぶい黄橙色	S字状口縁台付甕の脚台部か？ 内面－指頭痕がみられる 外面－上半に刷毛目痕、ヘリは内側に折り返っている 脚台部破片
6	土師器	台付甕	29.0,15.8, 9.2	粗い砂粒を含む	明赤褐色 橙 色	S字状口縁部横撫で 内面－胴上部に指頭痕、下部に刷毛目、みこみ部に撫での様な磨きがみられる 外面－胴部に斜め刷毛目 口縁部、脚台部破片
7	土師器	台付甕	＿＿,13.0, ＿＿	赤・白色粒子、金雲母を含む	にぶい黄橙色 にぶい橙色	S字状口縁部横撫で 内面－胴上部に指頭痕 外面－胴部に斜め刷毛目 口縁部～胴部破片
8	土師器	台付甕	28.8,17.5,10.4	金雲母・砂粒を含む	明赤褐色 （一部黒変）	S字状口縁部横撫で 内面－胴上部に指頭痕 外面－胴部に斜め刷毛目 脚台部はヘリが内側に折り返っている　一部欠損
9	土師器	台付甕	＿＿,15.0,＿＿	赤色粒子を含む	橙 色 にぶい橙色	S字状口縁部横撫で 内面－胴上部に指頭痕 外面－胴部に斜め刷毛目 口縁部～胴部破片
10	土師器	台付甕	＿＿,13.6,＿＿	砂粒を含む	橙 色 黒褐色	S字状口縁部横撫で 外面－胴部に斜め刷毛目 口縁部～胴部破片
11	土師器	台付甕	＿＿,16.2,＿＿	細かい金雲母、白色粒子を含む	にぶい赤褐色 暗褐色	S字状口縁部横撫で 内面－胴部上半に指頭痕 外面－胴部に斜め刷毛目 2/3残
12	土師器	台付甕	＿＿,11.9,＿＿	細かい金雲母、砂粒を含む	明赤褐色 下部赤褐色 褐 色	S字状口縁部横撫で 内面－胴上部に指頭痕、横刷毛目がわずかに見られる 外面－胴部に斜め刷毛目 口縁部～胴部破片
13	土師器	甕	＿＿,13.0,＿＿	金雲母、白色粒子を含む	橙 色	内面－口縁部斜め刷毛目 口縁部破片
14	弥生土器	壷	＿＿,＿＿,＿＿	金雲母、砂粒を含む	赤褐色	外面－口縁部に縄文が施されている 口縁部破片
15	土師器	甑	＿＿,＿＿, 5.0	白色粒子を含む	にぶい黄橙色	内面－斜め刷毛目 外面－縦刷毛目 底部に単孔がみられる 底部破片

＜１号掘立柱建物址出土遺物＞（第25・26図）

出土遺物一覧

（単位 cm）

番号	種類	器形	法量 器高・口径・底径	胎土	色調（内面/外面）	整形・特徴・その他
1	弥生？	壷	＿＿,10.8,＿＿	細かい砂粒を多く含む	浅黄橙色	内面－口縁部に刷毛目が見られる 外面－口縁部には縄文による刻目、残存する頸部より胴部に向かって縄文が施されている 口縁～胴部破片
2	土師器	長頸壷	＿＿,16.7,＿＿	粗 砂粒を含む	にぶい橙色	内面－頸部ヘラ撫で、胴部刷毛目調整の後、撫で 外面－磨き状のヘラ撫で 1/3残
3	弥生土器	壷	＿＿,＿＿,＿＿	金雲母と白色・黒色粒子を含む	橙色 明赤褐色	内面－指頭痕が見られる 外面－櫛歯状工具による刺突文、刷毛目痕が見られる 破片
4	土師器	長頸壷	＿＿,16.7,＿＿	粗 砂粒を含む	にぶい橙色	内面－刷毛目の後ヘラ撫で 外面－磨き状のヘラ撫でとヘラ磨き 口縁部破片
5	弥生土器	甕	＿＿,＿＿, 2.2	白色粒子を含む	にぶい橙色 にぶい褐色	内面－撫で 外面－頸部に櫛描波状文が施される 口縁部破片
6	土師器	台付甕	＿＿,16.8,＿＿	細かい砂粒を含む	にぶい黄橙色 暗褐色	内面－胴部上半に指頭の圧痕が残存する 外面－胴部に斜行する刷毛目が見られる Ｓ字状口縁部を有する 口縁部破片

＜１号溝出土遺物＞（第27図）

出土遺物一覧

（単位 cm）

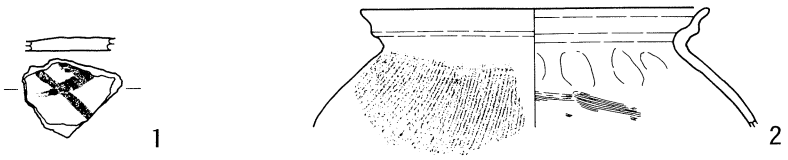
番号	種類	器形	法量 器高・口径・底径	胎土	色調（内面/外面）	整形・特徴・その他
1	土師器	坏	4.8,16.0, 3.5	金雲母と赤色粒子・白色粒子を含む	橙色 にぶい橙色	内面－撫で 外面－体部左方向ヘラ削り 底部－ヘラ削り 1/3欠損
2	土師器	坏	4.4,13.6,＿＿	金雲母と白色粒子を含む	明赤褐色	外面－体部表面ヘラ削り 1/3残
3	土師器	壷	＿＿,16.3,＿＿	細かい砂粒を含む	にぶい褐色	内面－細かい磨きが施されている 外面－撫で 口縁部破片
4	土師器	甕	＿＿,12.6,＿＿	金雲母と白色・黒色粒子を含む	橙色	外面－胴上部斜行する刷毛目 口縁部－Ｓ字状 口縁部・胴部破片
5	土師器	台付甕	＿＿,13.6,＿＿	金雲母と白色・黒色粒子を含む	明赤褐色 褐色	内面－胴部上半に指頭による圧痕 外面－縦方向に斜行する刷毛目 口縁部－Ｓ字状 口縁部～胴部破片

＜遺構外出土遺物＞（第28図）

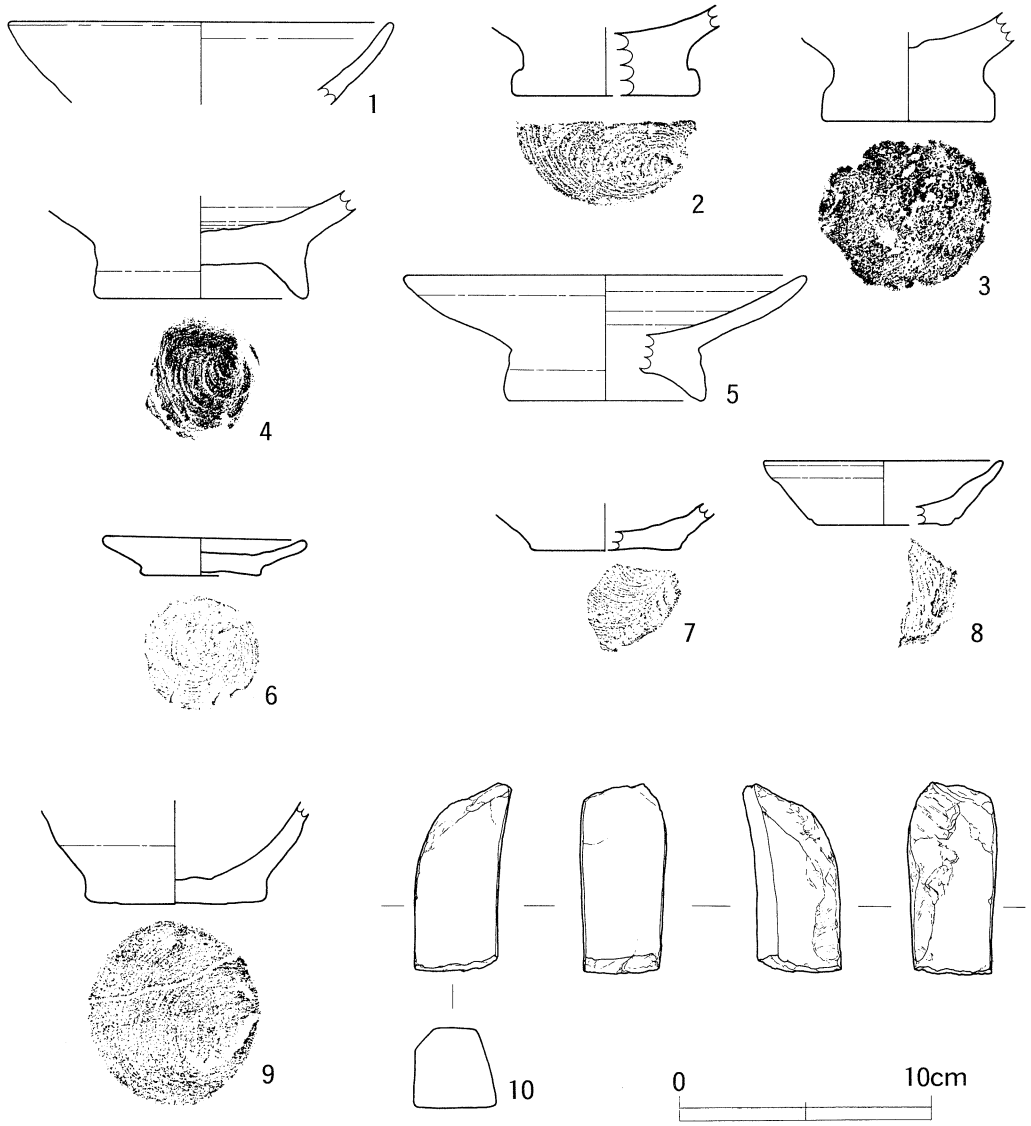
出土遺物一覧

（単位 cm）

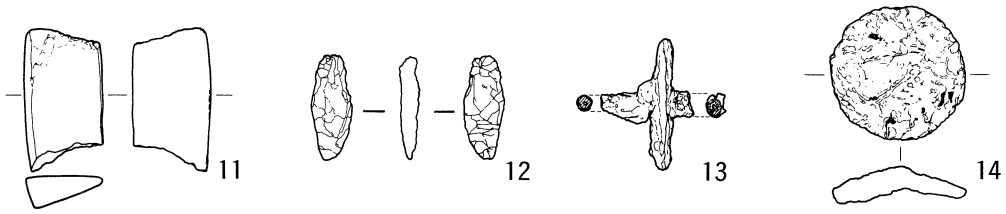
番号	種 類	器 形	法 量 器高・口径・底径	胎 土	色調（内面/外面）	整形・特徴・その他
1	石器	石棒				
2	弥生土器		＿＿,＿＿,＿＿	砂粒、白色粒子を含む	灰黄褐色	外面に櫛描波状文が施されている 口縁部破片
3	弥生土器	甕	＿＿,＿＿,＿＿	金雲母と白色粒子・赤色粒子を含む	橙 色 にぶい橙色	外面－縦刷毛目 口縁部横撫で 口縁部破片
4	弥生土器	壷	＿＿,＿＿,＿＿	砂粒を含む	にぶい橙色	羽状縄文が施されている 破片
5	弥生土器	?	＿＿,＿＿,＿＿	砂粒を含む	にぶい黄橙色	刺突文 櫛描波状文が施されている 破片
6	弥生土器	?	＿＿,＿＿,＿＿	白色粒子を多く含む	橙 色 明褐色	外面に櫛描波状文が施されている 口縁部破片
7	土師器	小型甕	＿＿,16.0,＿＿	白色粒子を含む	にぶい黄橙色	外面－口縁部、細かい横方向の刷毛目 胴部、斜行する刷毛目 口縁部破片
8	土師器	壷	14.4,10.3, 3.3	各種砂粒を含む	にぶい橙色	内面－口縁部横方向刷毛目整形後撫で 胴上部指頭圧痕 胴下部指頭による撫で 外面－縦方向の刷毛目整形後、こまかいヘラみがき 口縁部体部一部欠損
9	土器質	かわらけ	3.2,11.0, 4.8	金雲母と白色・赤色粒子を含む	橙 色	底部回転糸切り痕 口縁部一部欠損
10	白磁	椀	＿＿,14.0,＿＿	精 製	明緑灰色	内面と、外面口縁部より体部上半に釉がかかっている 口縁部破片
11	鉄器	刀子？				



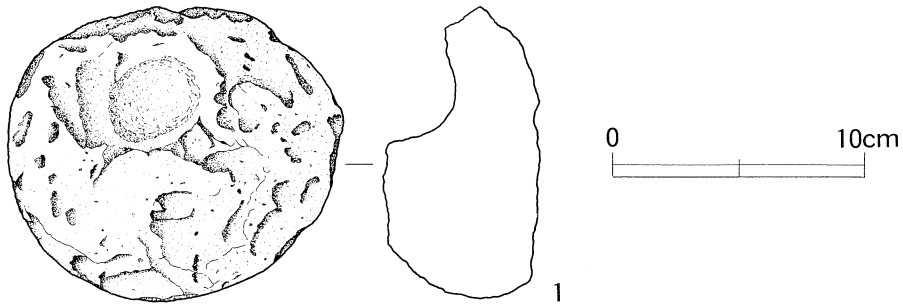
第15図　1号住居址出土遺物（1：3）



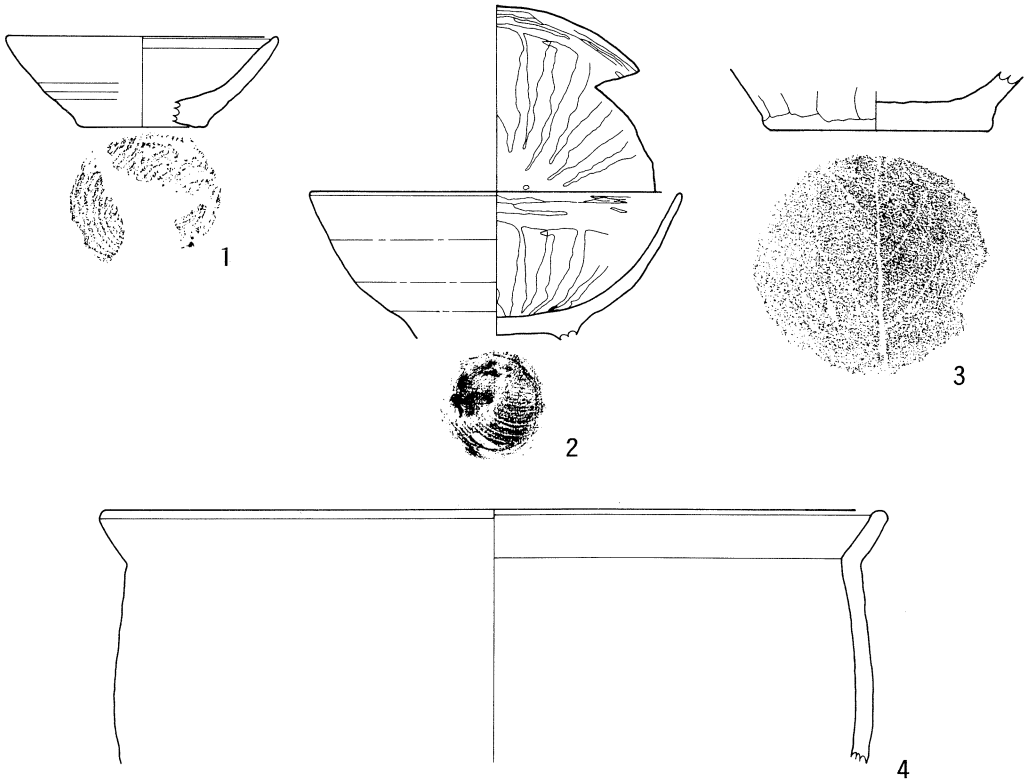
第16図　2号住居址出土遺物（1：3）



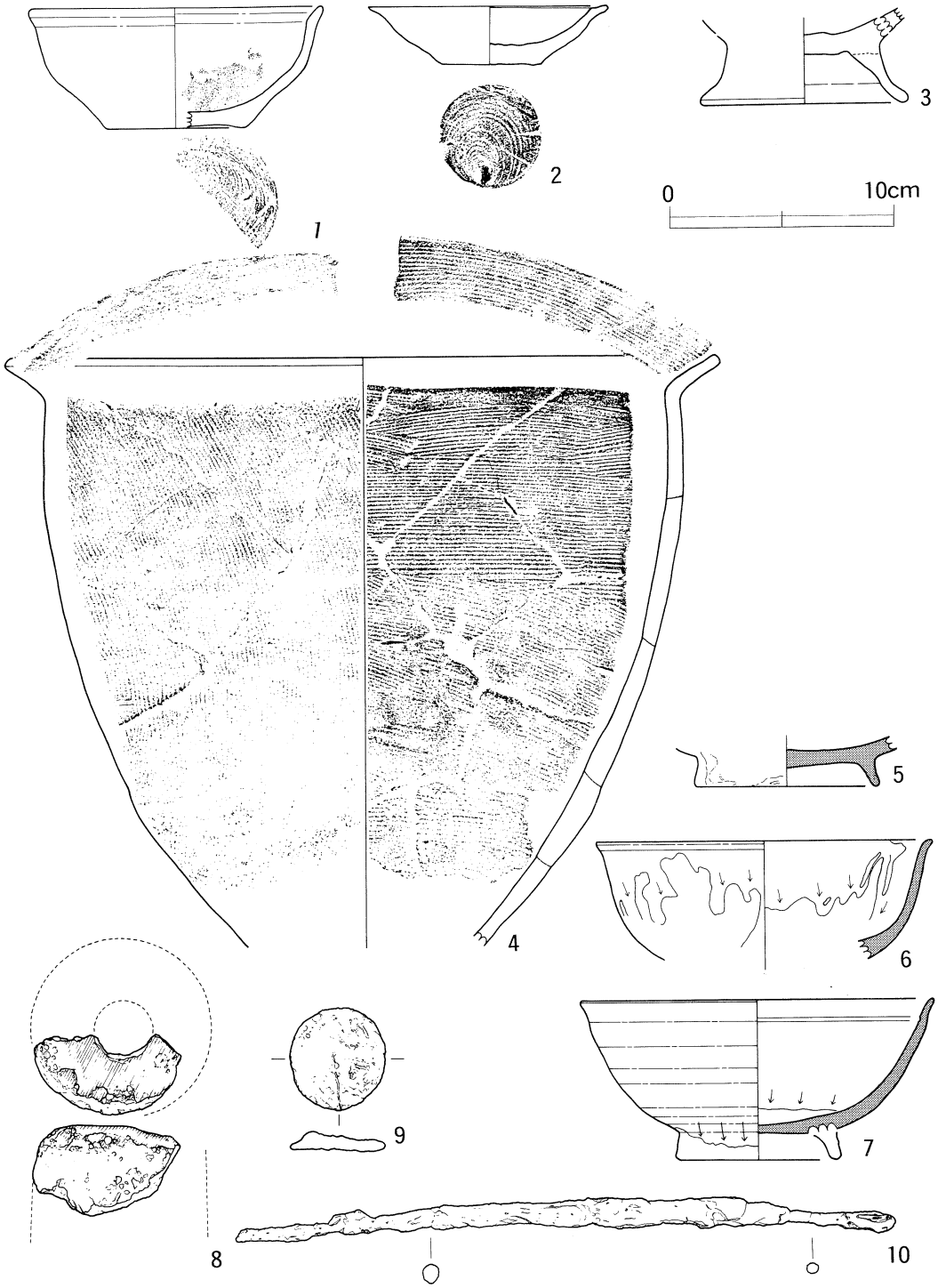
第17図　2号住居址出土遺物（1：3）



第18図　3号住居址出土遺物（1：3）

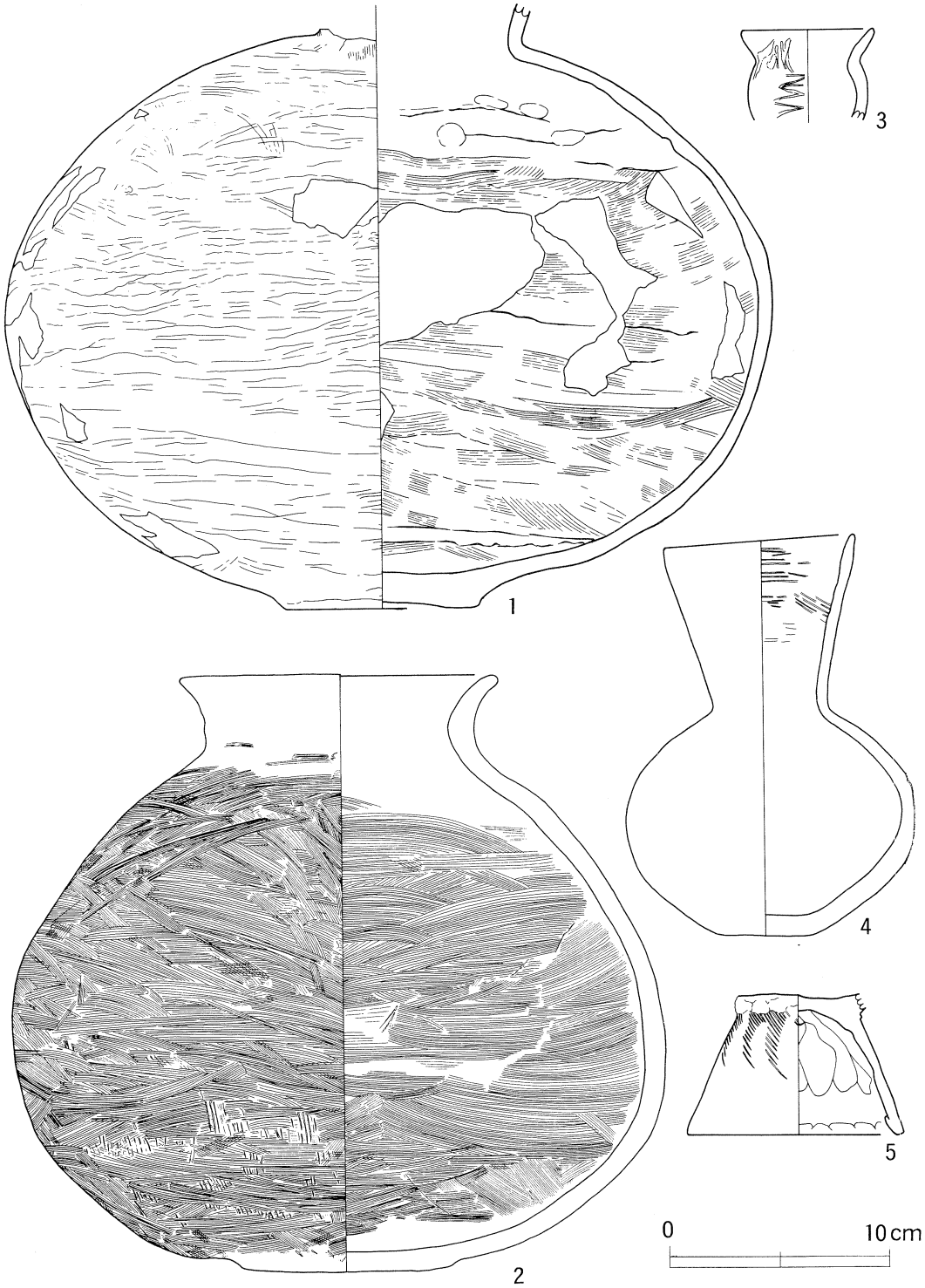


第19図　4号住居址出土遺物（1：3）

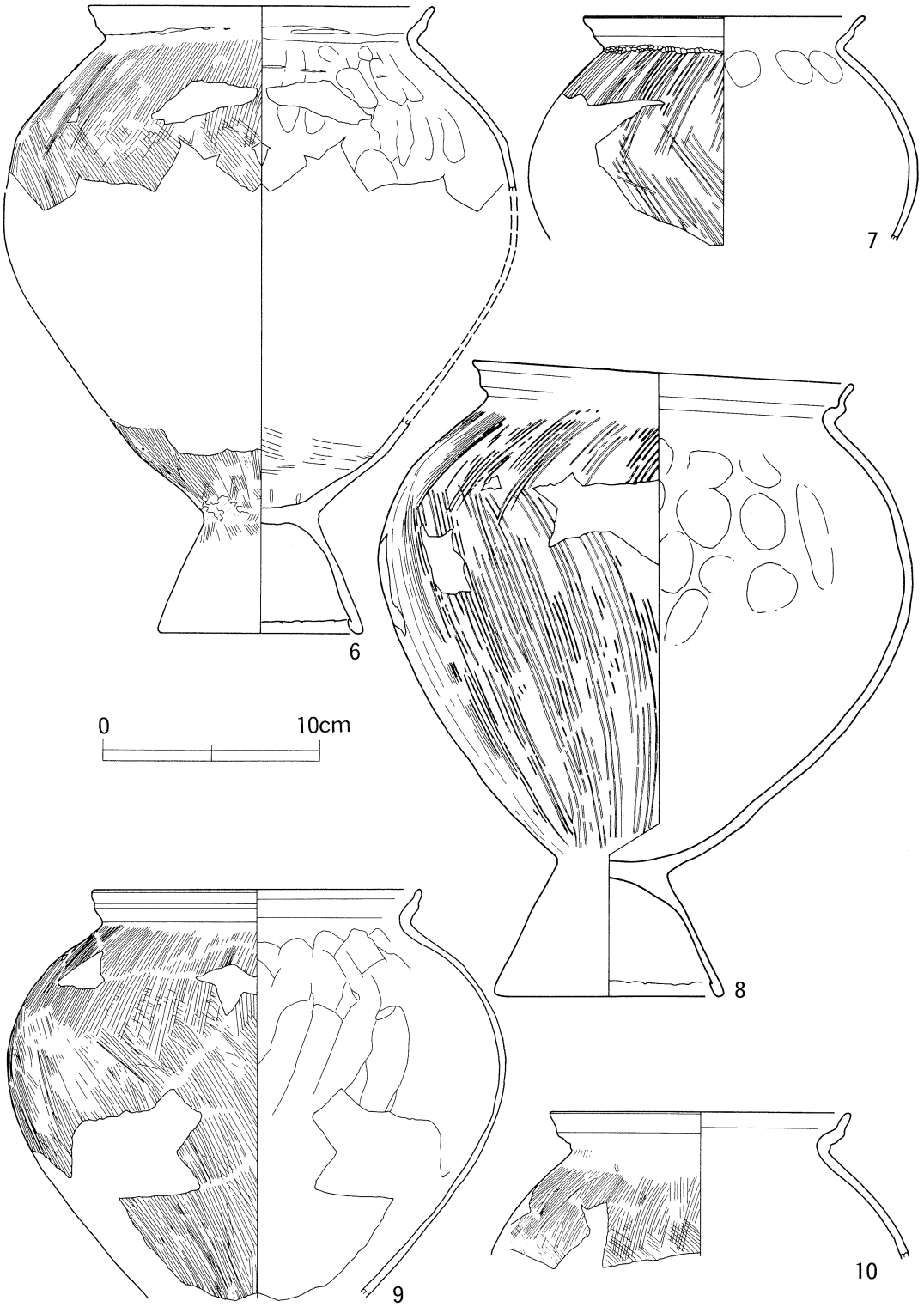


第20図　5号住居址出土遺物（1：3）

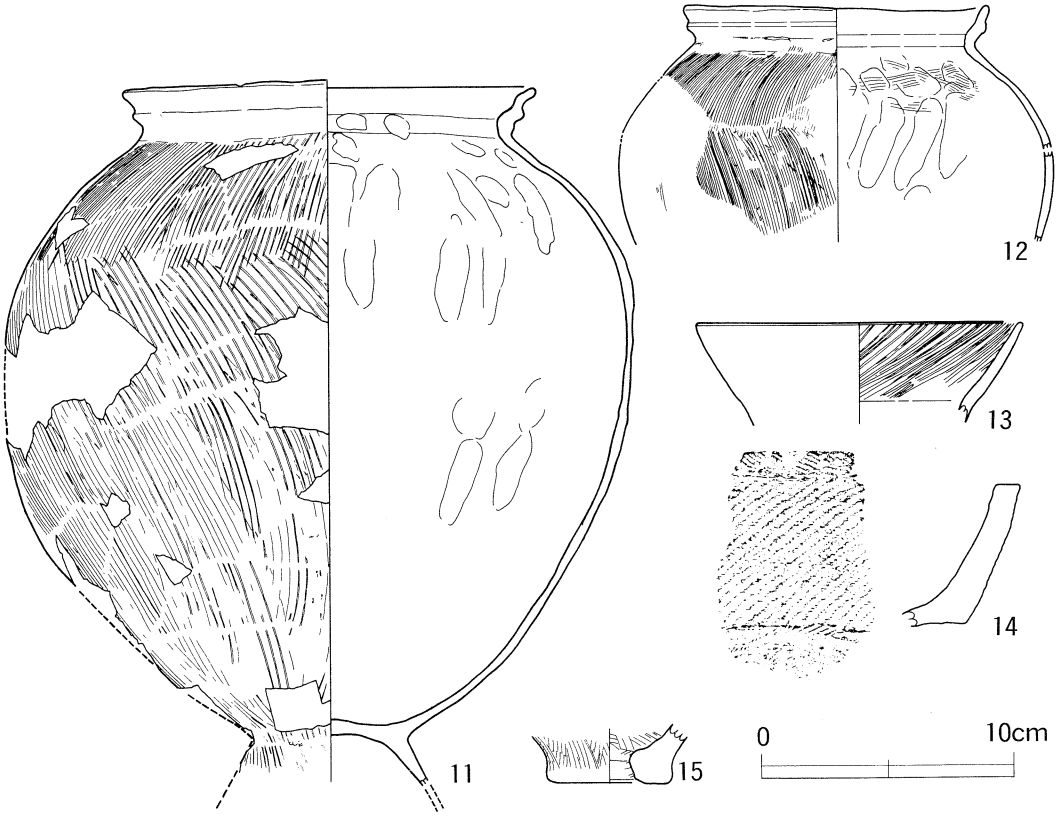
第21図　6号住居址出土遺物（1：3）



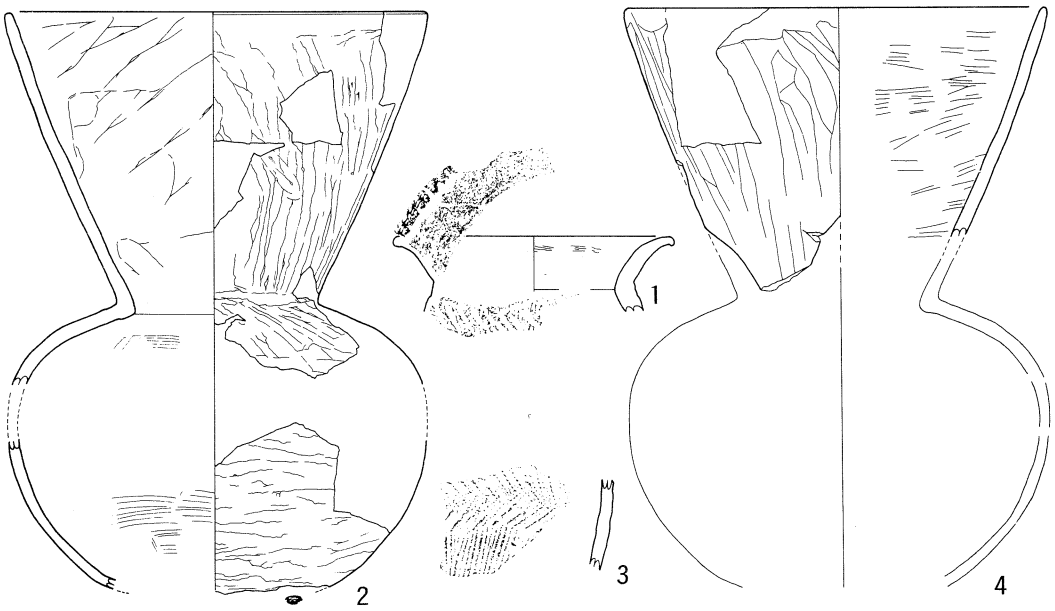
第22図　7号住居址出土遺物（1：3）



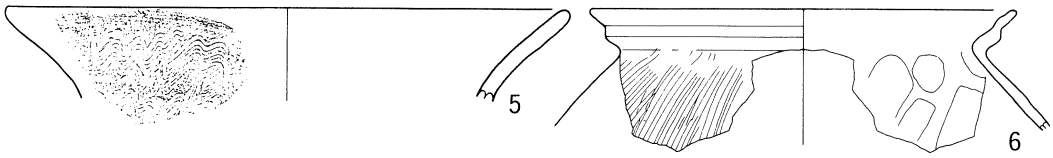
第23図　7号住居址出土遺物（1：3）



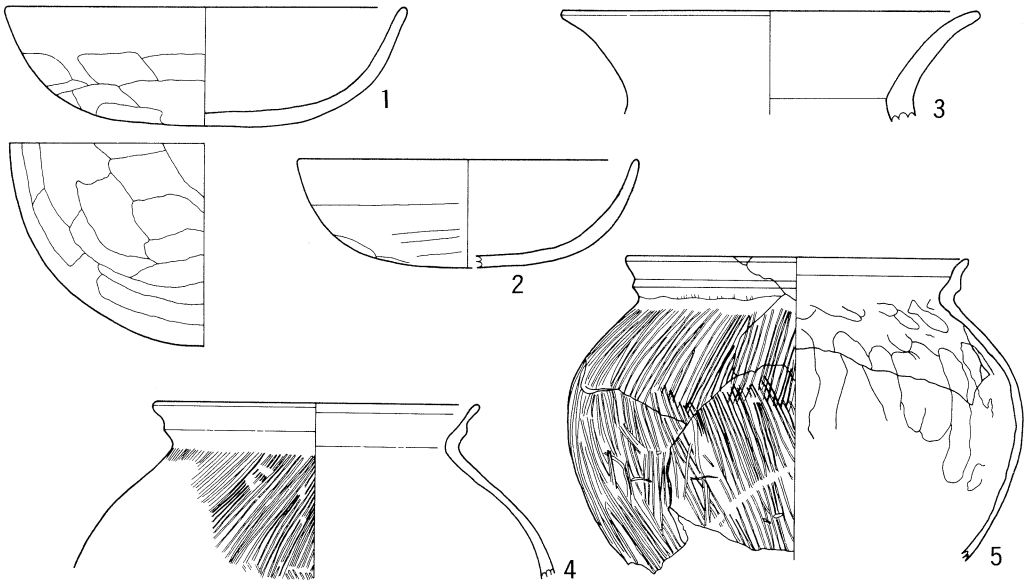
第24図　7号住居址出土遺物（1：3）



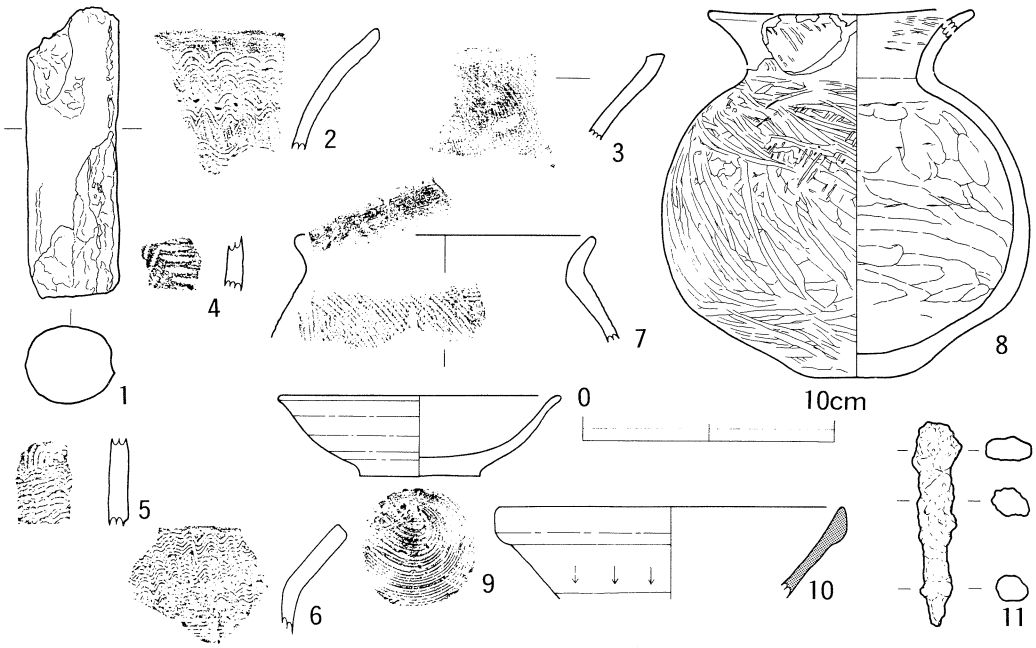
第25図　1号掘立柱建物址出土遺物（1：3）



第26図　１号掘立柱建物址出土遺物（１：３）



第27図　１号溝出土遺物（１：３）



第28図　遺構外出土遺物（１：３）

Ⅶ まとめ

今回の調査では、前章まで見てきたように古墳時代の住居址、平安時代の住居址、溝状遺構、土坑、掘立柱建物址が検出された。

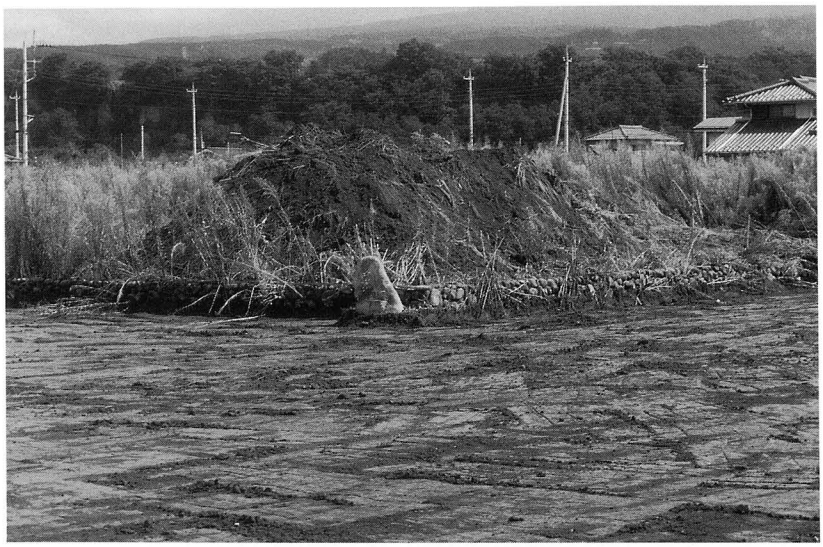
古墳時代の住居は竪穴で炉をもち、4本主柱穴の一般的な構造である。時期的には古墳時代前期に位置付けられる。当該時期の遺跡では七里岩台地上の坂井南遺跡が著明であるが、藤井平での発見はあまりなく貴重な発見と言えよう。平安時代の住居址は、出土遺物から平安時代後半～末に比定される。カマドをもつ住居のカマド位置は、いずれも南東隅であり、この時期に特徴的な作り方といえる。掘立柱建物址から出土した長頸壷は、特徴的な形態を呈しており祭祀にかかわるものであろうか。溝はほぼ南北方向に開削されており、条里の基準となったという伝承をもつ小字の立岩（たていし）となった石が調査区域端にあり、これらは条里にかかわる可能性もある。今回の調査では、以上のような成果が得られ、重要な発見であったといえよう。

おわりに

立石遺跡から発見された遺構と遺物は各時期の歴史を解明するうえで重要なものであるが、本報告書は限られた作業のなかでなされたもので、遺構と比較的遺存状態の良い遺物を抽出し呈示したにすぎない。遺構・遺物の詳細な検討等がなされず不十分な点は否めないが、本書が今後の調査・研究に資することができれば望外の喜びである。

写　真　図　版

図　版　1



立　　岩

1号住居址

2号住居址

図 版 2

作業風景

3号住居址

3号住居址カマド

図 版 3

4号住居址

測量風景

発掘風景

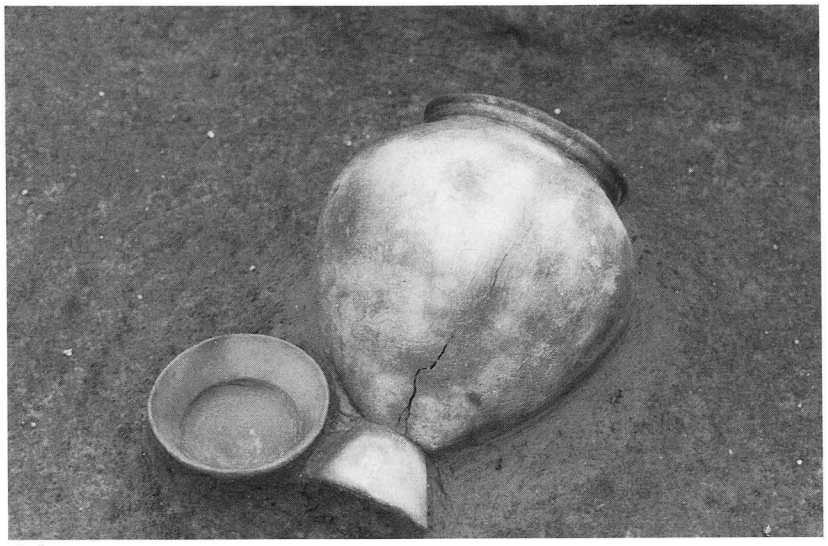
5号住居址遺物出土状態

5号住居址

5号住居址カマド

6 号住居址遺物出土状態

6 号住居址遺物出土状態



6 号住居址遺物出土状態

図 版 6

6 号住居址

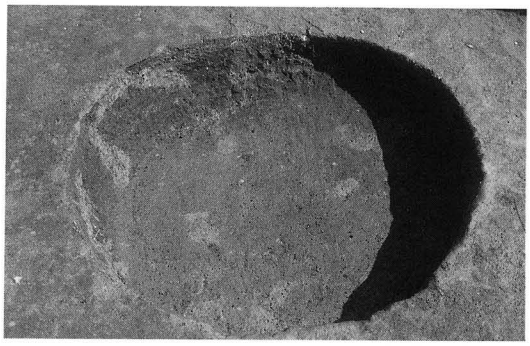
7 号住居址遺物出土状態

7 号住居址遺物出土状態

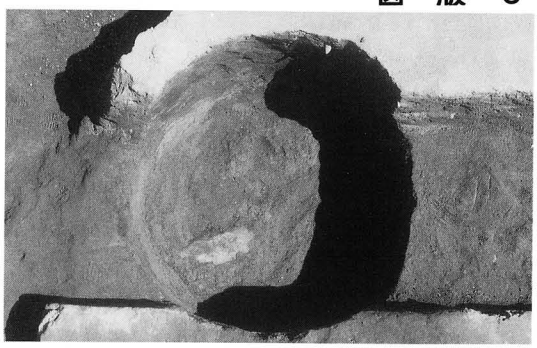
7号住居址

発掘風景

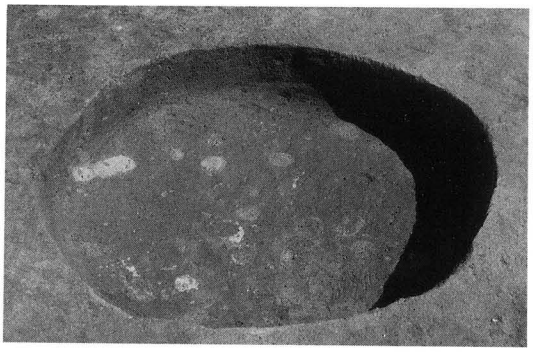
1号土坑



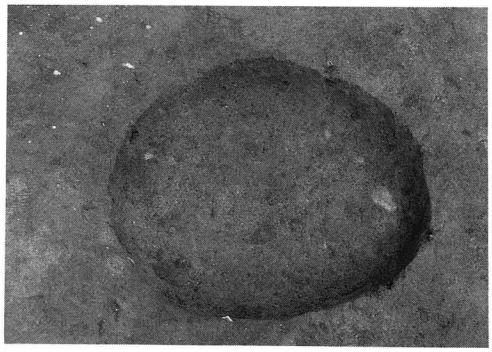
1 号円形土坑



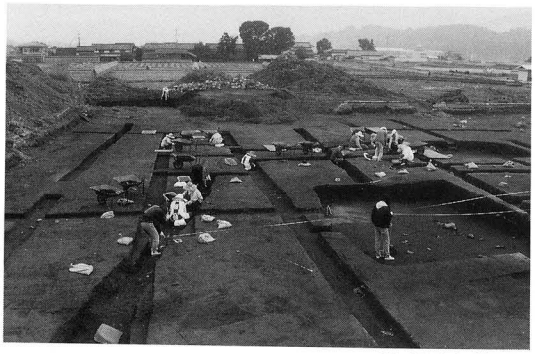
2 号円形土坑



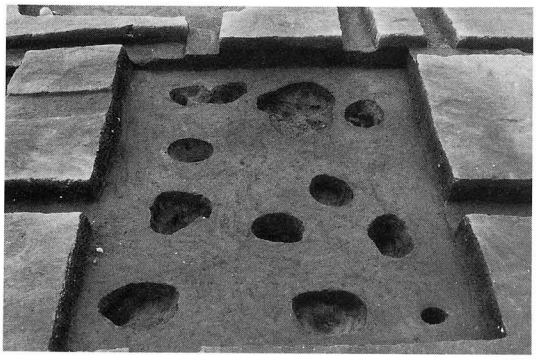
3 号円形土坑



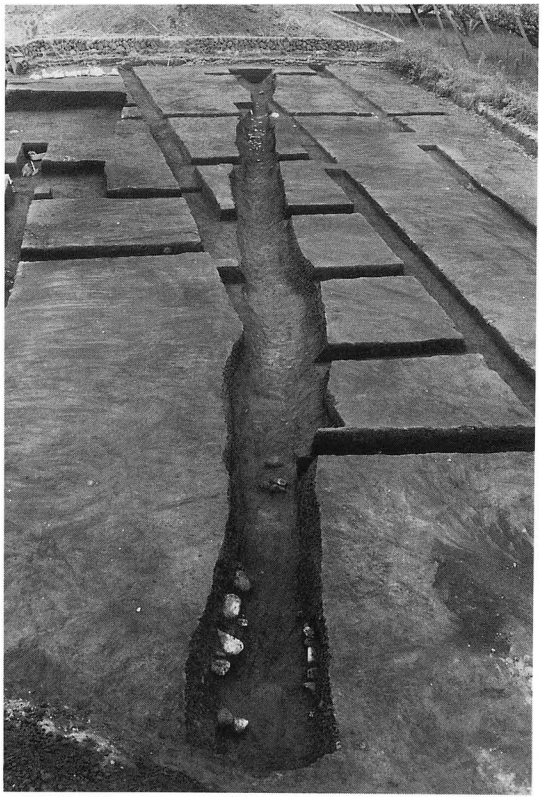
4 号円形土坑



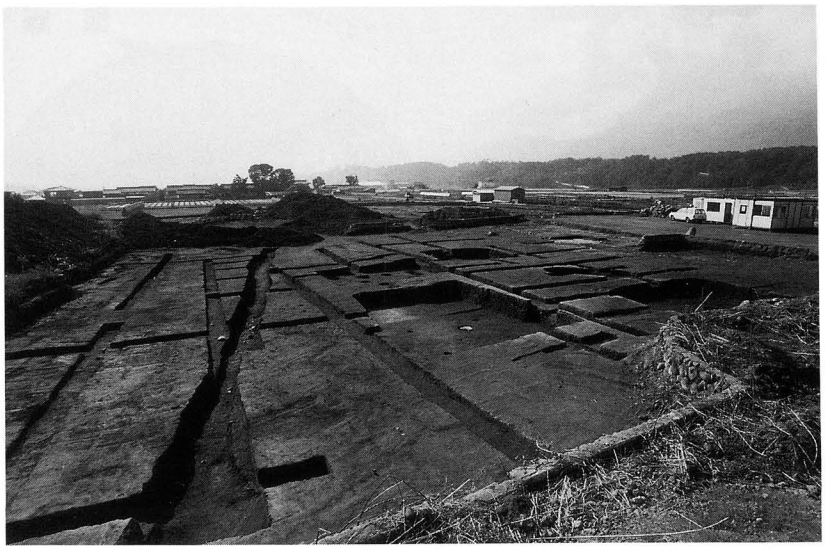
発 掘 風 景



1 号掘立柱建物址



1 号 溝



遺 跡 近 景

整 理 作 業

実 測 作 業

1

3

5

1 号住居址出土遺物

6

10

11

12

13

14

2 号住居址出土遺物

1

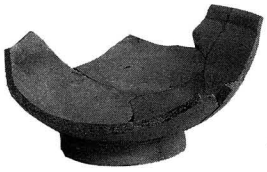
3 号住居址出土遺物

1

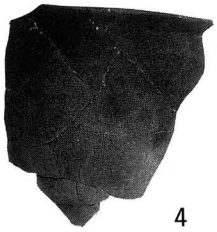
2

4 号住居址出土遺物

2



7



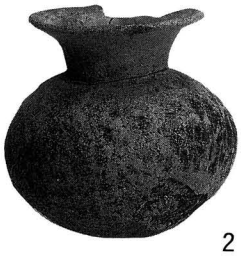
4

9

10

5 号住居址出土遺物

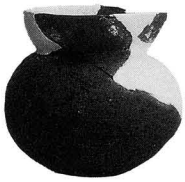
1



2

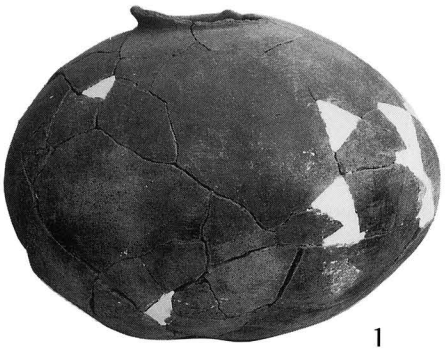
3

4



5

6 号住居址出土遺物


1

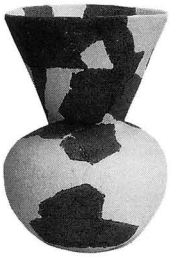
2

8

4

11

7 号住居址出土遺物


2

1 号掘立柱建物址出土遺物

1

5

1 号溝出土遺物

1

8

10

遺構外出土遺物

立　石　遺　跡

発行日　平成６年３月31日

発　行　韮崎市教育委員会
〒407　山梨県韮崎市水神一丁目３番１号
ＴＥＬ　０５５１－２２－１１１１（代）

印　刷　タクト/印刷・デザイン